

PRIMULA CONEIFORIA BULLETIN

Primula

プリムラ山の会

92

Primula92

c o n t e n t s

クローワール・・・・・・・・・・・・・・・・	2
In a Shot・・・・・・・・・・・・・・・・ 岡孝雄	3
92号のお題：最高だった山の温泉・・・・・・・・	4
こんなことしたかった!、ドロミテでクライミング三昧・・・・ 西本 りえ	6
ヨーロッパアルプス ドロミテ山群・・・・・・・・ 桜井 弘	9
ヨーロッパアルプス撮影行 -1、モンブラン・シャモニ側・・・・ 岡 孝雄	13
ヨーロッパアルプス撮影行 -2、モンブラン・イタリア側・・・・ 岡 孝雄	16
相模川水系笹子川 大鹿川ズミ沢 (平ツ沢)・・・・・・・・ 市瀬 江利子	21
夏休みはカナディアンロッキーで・・・・・・・・ 小堀 和貴	23
滝谷ドーム中央稜、第1尾根と 前穂高岳北尾根 4 峰正面壁松高ルート・・・・・・・・ 佐藤 正俊	26
穂高の岩登り・・・・・・・・・・・・・・・・ たいら まり	29
リハビリの夏に辛うじて登った山々・・・・・・・・ 北原 浩平	32
利尻岳登山・・・・・・・・・・・・・・・・ 山里 守廣	35
栗子山栗子山塊 滑谷沢・・・・・・・・・・・・・・・・ 初鹿 裕康	37
子連れハイク (1 歳 10 ヶ月)・・・・・・・・ 市瀬 江利子	39
景色を見ながら!・・・・・・・・・・・・・・・・ 初鹿 裕康	40
なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記・・・・・・・・ 水野 奈保美	46
山行一覧 (1) 2013 年 6 ～ 7 月 21 日・・・・・・・・	50
山行一覧 (2) 2013 年 7 月 22 日～ 9 月 7 日・・・・・・・・	51
編後記ですよ・・・・・・・・・・・・・・・・	52

プリムラに入会して早2年が過ぎた。その間、怖い思いも散々してきた。

今となっては思い出深いヒヤリハットなお話3つと、最近気に入っている詩を1つご紹介。

ハヶ岳で初めてのアイスクライミング

トップロープで2～3メートル登ったあと、今度は降りることになった。テンションをかけつつ切れ落ちた淵まで戻り、下降準備が整ったところでビレイヤーに「お願いします！」と声を掛けた。瞬間、ロープが大きく緩み、足を動かす間もなく頭からひっくりかえってしまった。ロープがゆっくり左右に揺れる中、逆さまに吊るされた状態で見渡せば、地上にいたMさんとHさんと同じ目線上で目が合い、「こいつ面白いな」と笑われる始末。懸垂下降を習ってまだ日も浅く、アイゼンを初めて装着したその日の出来事だった。

冬の権現岳で

急峻な樹林帯を下る途中、アイゼンが笹の葉に引っかかり転がり落ちてしまった。運よく、木々に張り巡らされていたFIXロープ?に当たり止ったものの、体は「ク」の字に曲がり、頭が下になった状態でひどく悪い。その上、喉が圧迫されて息苦しい。ザックを外そうにも、肩紐が肩にしっかり食い込んでしまい腕が通らない。「あとどうするか・・・」そう思った矢先、歩きの遅い私についてくれていたKさんに助けられ事なきを得た。

ハヶ岳・天狗尾根で

悪天候の中、大天狗基部を越えた後、特に難しい箇所はないので、先行組二人は私達を確認してから、先に小天狗へ向った。後続組の私達もロープを回収してすぐに小天狗に向う。強風の上、ガスで10m先も見えない状況になってきていた。

小天狗を登り切り、しばらく緩い坂道を歩

いていると、下から人の声らしきものが耳をかすめた。その時は、後続にも他のパーティがいるんだな位にしか思わなかった。

しばらく赤丸ペンキ印を頼りに登っていたが、ふと、時間が長すぎないか?と疑問がよぎり、平な場所に出たのを機に、先頭に行く仲間に声を掛けてみた。ところが、ピッケルなしでは立ってられない程の強風のため、全く聞こえない様子。

次は、左側がスッパリ切れ落ちた岩場をトラバースしなくてはならなかったのも、なんとか追いつき、いまだ先行組に出会わないのが不自然な事と、下から声が聞こえた旨を伝えた。では、引き返して様子を見に行くから待っていてと言われるが、離れるのはリスクがあるような気がしたので、先を急ぐ仲間に「一緒じゃないとダメだよー!!!置いてかないデー!!!!」と大絶叫の末、なんとか行動を共にする。

それから数分後、少し下ったところで、探しに来てくれていた先行組の仲間2人と無事合流できた。なんの事はない、私達は稜線に出てから、ツルネ東稜とは反対の赤岳を登り始めていたのだ。

視界不良の中で方向感覚が麻痺する怖さと、コンパスの重要性を改めて思い知らされた。

なんという今だ

今こそ永遠

全自分を賭けている時—この時より他に

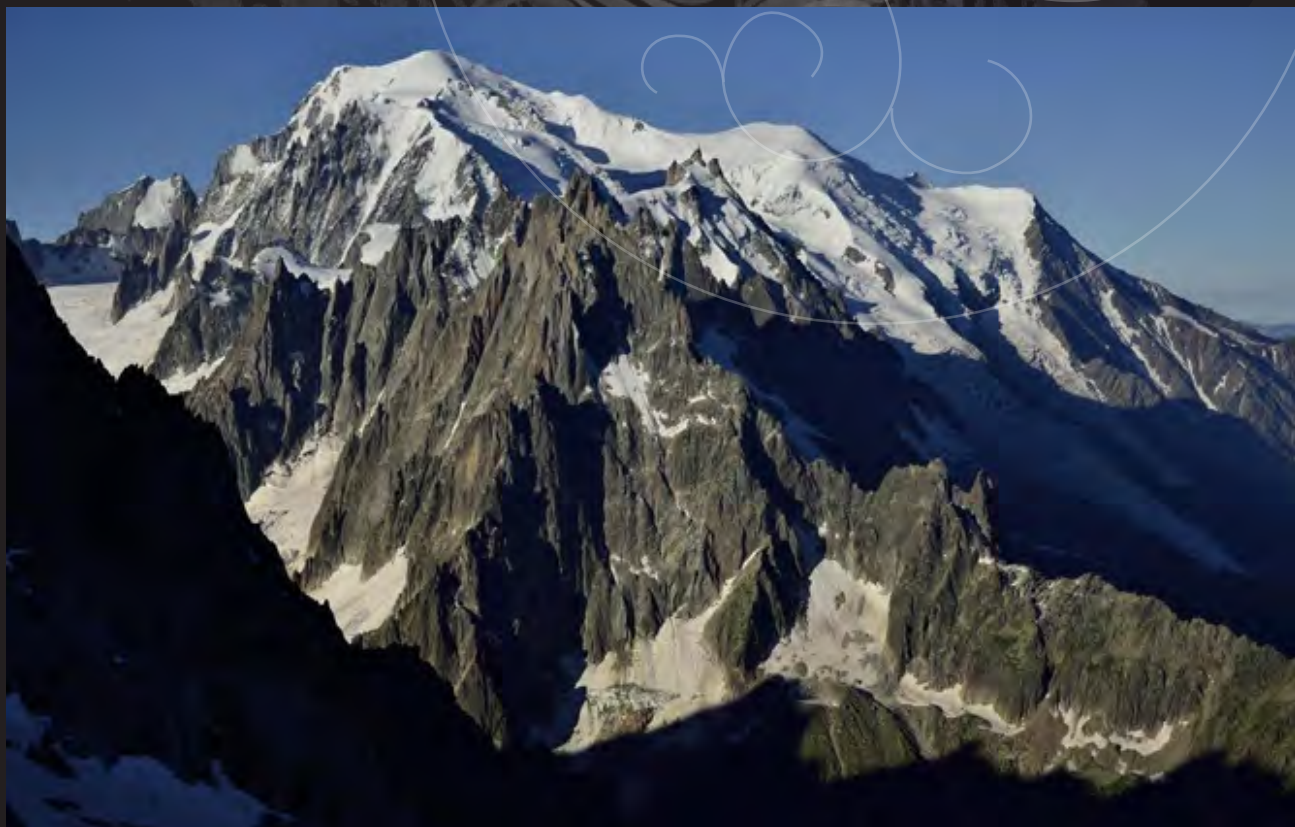
生きている時があるであろうか。

生きているのに、生きたり死んだり。

死んだり生きたり

In a shot

Primula
92



モンブランへ続く岩稜

岡 孝雄

撮影目的でヨーロッパを訪れるのは2回目である。前回はプリムラのメンバー3名で、岡のみ撮影で他は登山。今回は撮影のみが目的で写真仲間の鈴木さんと2名である。日本でもそうだが、登山と共通点はあるものの撮影となると、一つの山の撮影でも場所・時間・光の差す方向等を考えなければならず、登山知識技術以外の要素が加わる。プラス撮影機材・生活道具である。登山する上で、重量は最大の敵である（ガストン・レヴィュファール）と言わしめた理由を改めて感じた。若い時に登山中の撮影をもっとしていれば良かった！これは今になって感じることだが、その時は登山オンリーだった。これはこれで良かったのだ。その経験が生かされているのだと信じたい。

海外の山は絵になりやすい。どちらを向いても新鮮な驚きがある。それは普段見慣れない光景であり非日常でもある。山そのものが直線的

な構図を基に成り立ち、まさにアルピニズムの世界だ。日本の山は曲線を主体に構成されている。地質・気候等の違いによるところが大きいが、どちらが良いというのでは勿論ない。山岳の持っている本質が表現できればよいのだが？— そうなりたいと思っている！— 中々なれないのだね—これが！！

陽の射し込まないドリューの影を前景に、針峰群から連なるモンブラン。雪と岩稜の対比を狙ってみた。ここグラモンテまでは、シャモニからバスとロープウェイを乗継ぎ、歩くことなくやって来られ、まさに観光地だ。1回目の撮影はアルゼンチール氷河に向かうため早々に引き揚げたが、気に入った場所でもあり

じっくり撮影するため再度訪れた。ここでビバークすれば早朝から星夜まで思う存分撮影できるのだが！可能かどうか？もう一度行かなければ！！

Primula
92

Vol.92のお題 最高だった山の温泉。

画像はネット画像検索
して拾ってきたもので
す。版權などが発生する
場合はご連絡下さい。

2 票：白馬鑓温泉 北ア後立山



白馬鑓温泉。夏に扇沢から爺ヶ岳、鹿島槍、五竜、唐松、不帰を歩いて最後の泊り場。眺めの良い露天風呂は、男女入れ替え制で、女性は夜に入れる。山の中に居る感じが満点。(M. T.)

雪の白馬鑓温泉。やはり雪山での温泉。定番ですがスノーツアーで行く、白馬鑓温泉かな。この時期にあそこでテン泊したことがないので、今度やってみたい。(K. K.)

1 票：湯の平温泉 飯豊連峰

温泉掘りも色々行きましたが、なかなかどっぷり浸かれる秘湯はないねえ。山の中の温泉といえば、飯豊連峰の湯の平温泉が一番良かったかな。山の帰りに露天風呂にずーっと入ってました。湯船から釣りして岩魚が釣れたりします。一泊1,000円の小屋あり。加治川治水ダム駐車場から徒歩5時間30分(*^_^*)。(H. H.)



1 票：蓮華温泉 北ア後立山 湯段温泉 長兵衛の湯 岩木山

編集注) ネットで調べたところ、長兵衛旅館は、2012年11月に完全閉館されたそうです。



パッと思い出すのは冬の蓮華温泉。山スキーで辿り着き、雪で覆われた露天風呂にみんなで入った時は楽しかった。そして、忘れられないお湯は、岩木山の山スキーで泊まった、湯段温泉の湯治宿、長兵衛の湯。小さい湯船に、源泉かけ流しで溢れ出てくるお湯は、他では経験でしたことのない優しいお湯。ここはもう一度行きたいなあ。(E.I.)

1 票：Keough's Hot Springs Bishop C.A USA Deep Creek Hot Springs Apple Valley C.A USA



山なのか？アメリカ・カリフォルニア州ビショップの川の温泉。荒野に温泉が湧いている。この温泉を使ってプール施設があるが、近くの川も適温。同アップルバレーの川の温泉 Deep Creek Hot Springs。これは、地元の人はよく訪れているようだけど、観光客にはハードル高し。ダートロードを小1時間走り、その後トレック 30 分ほど。水着を着て入ったけど、地元のひとはまっパ一で入ってたよ～(写真参照 w : N.M.)

Primula 92

こんなことしたかった！ ドロミテでクライミング三昧

・・・西本 りえ

日程：2013年7月5日～16日

メンバー：桜井、西本

1日目：7月5日金曜日

成田を発ちローマへ、さらに国内線に乗り換えヴェローナへ。遅くにホテルに到着、ホテルのバーはクローズ、自販機もなく仕方なく今夜はおとなしく就寝です。

2日目：

朝レンタカーを借りカナツェイへ移動。

左ハンドル初体験の桜井氏は終始、緊張の面持ちでハンドルを握る。となり助手席の私にもそれが伝わり話しかけるのも憚られるが、イタリアの美しい田舎の風景、次第に近づいてくる山々に段々と胸が高鳴ってくる。ボルツァーノからドロミテ街道に入る。ここからは峠道。

途中、碧色の神秘的な湖カレッツァ湖に立ち寄る。観光名所とあってたくさんの観光客で賑わっている。休憩も兼ねて私たちも湖畔の遊歩道を散策。

そして再びドロミテ街道を走り続けようやくカナツェイの街へ到着する。道の両脇はカフェ、レストラン、土産物屋、歩道はツーリスト、トレッカーでにぎわっている。

取り敢えず、明日の下見という事でボルドイ峠へ向かう。またもカーブが連続する峠道に入るが、車のほかに自転車、バイクの往来が激しくさらに桜井氏の緊張が高まる(運転任せきりで、すみません。(-_-)!!)

ボルドイ峠は標高約2,200mあるが、今日は良い天気で暑いくらい。明日登る予定のルートが見える処まで登山道を登り確認。その大岩壁に圧倒される。どうぞ明日も良い天気でありますように！

街に戻りスーパーで買い物を済ませ、チェックイン。この夜は桜井氏日本からカレールウを持ってきたというので、イタリア初日のディナーはカレーでした。ビールで乾杯。

3日目：快晴

Maria Kante IV+ 370m 10 ピッチ

ボルドイ峠へ向う。駐車場で身支度を済ませ登山道を歩き出す。と、すぐに上から東洋人(日本人だった)、写真を撮りに来ていて今日で4日目。晴天続きで良い写真が撮れたそうです。

途中、雪渓を渡り取付きまでは小一時間。さっそく準備にかかる。今回の山行ではリードは空身、セカンドがザックを背負って登攀というスタイルです。

1ピッチ目は桜井氏リード、セカンド私で行くがⅢ級のはずが結構ムズイ。ビレイポイントで確認するとどうやら取付きを間違えてしまったよう。左ヘトラバースし正規のルートへ(この間違いが、後日恐怖のクライムダウンになるのだが…)その後はまずまず順調にツルベで登って終了点へ。ゴンドラ駅の終点が頂上です。熱いコーヒーで暖まり下山。

4 日目：晴れ曇り

First Sella Tower South-West IV+ 300m 10 ピッチ

本日はセラー 1 峰南壁、ここは初心者向けの人気ルートらしい。取付いた時は誰もいなかったが、後続パーティーが次々とやって来る。（基本的にⅢ級以下はビレイポイントまでピトンやボルトは無い、Ⅳ級の核心部分でようやくプロテクションや残置がある。）プロテクションを取らないままランナウトし、進んで行くのは非常に不安。後続パーティーに追いつかれ、互いに前後しながら登り終了点へ。

今日は比較的易しいルート、少し物足りない感はありませんが、無事登りきれ一安心。

5 日目：曇り

First Sella Tower South-West V- 205m 6 ピッチ

今日は昨日のルートを少し先へ進んだところ。同じ取付きなので迷う事は無いと少し遅めに出発したため取付きは順番待ちになり（ここも人気ルートらしい）仕方なく待つことに。しかし中々時間がかかる。11 時まで待って取付けなければ転進することにしたが、前の 5 人組のパーティー、雲行きが怪しくなってきたので中止にすることにしたようです。

急に順番が来て急いで準備。1 ピッチ目は桜井氏がリード。すぐに先行パーティーに追いつく。若い男性がリード、おじいちゃんがセカンドでゆっくり、楽しんで登っている感じ。この核心は 3 ピッチ目のクラック。

桜井氏からのコールで登り始めるが前夜結構雨が降ったのでクラックからの滲み出しで手がべったりする。ザックの重さもあるが、やはり核心は難しい。ヌンチャクを掴みたい衝動に駆られるが、セカンドで AO は無いでしょと言いつつ聞かせ何となくクリア。今にも降りだしそうな空模様中、やはり 4 ピッチ目終了した所で雨がポツポツ。迷ったがここから下降することに決める。車に戻り走り始めると本降りの雨に。

6 日目：昨日と同じルート

昨夜の打合せで明日は少しグレードアップという事で本日はセラーⅡ峰北壁へ。

夜半には雨は上がったが、昨日はかなり降ったので心配しながら取付きまで、やはり濡れています。どうするか？結局、昨日のルートは途中まで南壁なのでここより乾きが良い、懸垂で使った残置も回収出来る、と昨日のルートをリベンジすることに決める。再びⅠ峰南壁へ、今日は一番乗り。

だがすぐに 1 組やって来る。スピードはどうかと聞かれまあまあと、答えるが、後を追われるのも嫌なので先に行ってもらおうかと迷うが、桜井氏に焦らなくて良いからと言われ行くことにする。今日は私からリード。同じルートなので気分は楽です。残置を回収しながら終了点まで。

時間的にはまだ早いので一度降りて短いルートでもと相談していると、後続の 2 人が午後から雨になるから今日はもう下山した方が良くいと教えてくれる。

トレッキングのお客さんを連れたガイドさんも午後は雨予報のため下へ降りてこれからカフェタイムだそう。そんなもんかと思いながら我々も見習ってお茶にする事に。（そういえば今日は OFF の日でした。）

7 日目：快晴

Sas Pordoi V- 360m 11 ピッチ

ポルドイ峠へ、初日に取付きを間違えたルートへ行くことにする。朝から快晴のためかこの人気ルートも次々にクライマーがやって来る。横並びにいくつかのルートがあり皆それぞれに取付いている。私たちは一番にこのルートに取付くが、3 ピッチ目に私がルートを間違える。最初にプロテクションを取ったところから外れてしまったようで気が付いた岩はボロボロ状態。最後にクリップした箇所からかなり登っている。

少しずつクライムダウンを始めるが、生きた心地がしない。ボロボロの岩はどこも信用できない。慎重に降りるが左足を乗せた箇所が崩れ落石、その

落石で桜井氏の肩に軽い怪我をさせてしまう。(本当にごめんなさい。)

とても下を見る気はしないが、はるか左下方にビレイポイントが見える。あそこまでガンバレと自分に言い聞かせ進む。

残りあと数メートルの所でビレイポイントにいる男性が確保するからとロープを投げしてくれる、中々のイケメンだったので迷わずアンザイレン、グラツェです。でもこの時は本当に助かったと思いました。気を取り直し、桜井氏からザックを受け取る。4ピッチ目桜井氏リード。核心はこのピッチでしょうか、よくぞ頑張ってリードしてくれました。セカンドで十分緊張しました。

その後はまずまずの順調に進む、途中からは別のルートと合流するためビレイポイント也大混雑。山頂のカフェでご褒美のアップルパイと熱いコーヒー。

8日目：晴れ

Torre Firenze North-West Arete IV 520m 14 ピッチ

本日は遠出をして、今回の計画の中で一番長いルートです。やや、疲れが溜まってきたのか取付きまでがかなりしんどい。グレードはIV級が2ヶ所、他はⅢ級程度が連続する。

アプローチも遠いためか、天気は良いが他のパーティーもなく貸切。易しいルートだが、やはりプロテクションが無いためルートファインディングが難しい。登ってはクライムダウンしてまた登り返したりと結構時間がかかる。ダラダラ登りが続き気持ちもダレる。

しかし、桜井氏のトポの翻訳によると頂上からその先、下降ルートには素敵なプレゼントが待っているらしい…(牧草地、満開のお花畑でした。のどかで癒されました。)

9日目：晴れ後曇り雨

Piz Ciavazes IV 325m 10 ピッチ

いよいよ最終日。すっかり通い慣れた道をセラーへ向う。峠道、路肩の駐車スペース数か所で多くのクライマーがコーヒーや食事を取りながら準備しています。道路を隔てた岩壁が今日の目標。10分ほどで取付きに。沢山のルートがありますが、現地で入手したトポで登れそうなところを昨夜の内にチョイス。

間違いなかったようで、最終日のクライミングを楽しむ事ができました。

一言：まだまだクライミングの技術が足りないのを痛感(当然か)。たくさん課題が残りましたが、今後に生かして行きたいと…そしてもっと成長して再び訪れたい！！

Primula 92

ヨーロッパアルプス ドロミテ山群

・・・桜井 弘

ポルドイ峰 南壁

セラ1峰 南壁



日程：2013年7月5日～7月16日

メンバー：桜井、西本

===== 行 動 記 録 =====

7月5日(金)

成田発13:15→ローマ着19:00(飛行時間約13時間)
ローマ発20:50→ヴェローナ着21:55(ヴェローナ泊)

7月6日(土)

ヴェローナよりレンタカーにてA22(高速道路)利用、ボルツァーノ経由カナツェイに移動、以降14日までカナツェイ泊

7月7日(日)

PORDOI SPIZE (2952m) South Pillar "Maria Kante" IV+ 370m 10ピッチ=通常コースタイム3h 我々5h20

7月8日(月)

THE SELLA TOWERS II峰 (2533m) ~II峰(2598m)縦走 IV+ 300m 10ピッチ=通常コースタイム3h 我々4h

7月9日(火)

FIRST SELLA TOWER (2533m) South-West Corner "Tren Ker" V- 205m 6ピッチ=通常コースタイム2h 我々4ピッチ目
途中、降雨のため同ルート下降 2h

7月10日(水)

同上ルート完登

7月11日(木)

PORDOI SPIZE (2952m) Via "Gross" V- 360m 11ピッチ=通常コースタイム3~4h 我々6h

7月12日(金)

TORRE FIRENZE (2493m) "North-West Arete" IV 520m 14ピッチ=通常コースタイム3~4h 我々4h

7月13日(土)

PIZ CIAVAZES (2828m) Via "della vampa" IV 325m 10ピッチ=通常コースタイム3h 我々4h

7月14日(日)

カナツェイからレンタカーにてヴェローナへ移動(ヴェローナ泊)

7月15日(月)

ヴェローナ発11:15→ローマ着12:20 ローマ発15:10

7月16日(火)

成田着10:20

===== 費 用 (1人あたり) =====

1. 交通費(198,940円)

成田～ヴェローナ(往復)160,390円 ※1
レンタカー代 24,500円 ※2
ガソリン代 4,900円
高速代(302km利用)1,370円
タクシー代5,200円 ※3
阿佐ヶ谷～成田空港(往復)2,580円 ※4

2. 宿泊費(44,830円)

ヴェローナ ホテル代(2泊 朝食込み)8,830円



カナツェイ アパート代(8泊)36,000円 ※5

3. 食費 18,000円 ※6

4. その他

山岳保険 12,300円 ※7

パスポート取得費用 (10年)16,000円

国際運転自動車免許取得費用 2,400円

費用備考

※1 航空運賃:往復航空運賃、燃油サーチャージ、諸税金、日程に余裕があれば多少安いものがあった。

※2 レンタカー代:エイビスレンタカー利用。9日間の利用。各種保険含む。同じ車の大きさでマニュアル車を利用すれば、半額近くになる。日本でオートマ車を予約。

※3 タクシー代:空港から高速の入口が近いため、空港にあるレンタカーオフィスを利用。空港～ホテル(往復2回)約20km利用

※4 電車賃:阿佐ヶ谷～日暮里～成田空港(JR+京成の通常の特急利用)

※5 アパート代:日本で予約 キャンプ場を利用すれば安くなるが、荷物が増える。(アリタリア航空のエコノミークラス利用の場合、無料預入荷物23kg/個数1ヶ、機内持ち込み荷物8kg/個数1ヶ)

アパートは食器、シャワー、寝具、ランドリー(共同)など完備でたいへん快適であった。

※6 食費:ほとんどアパートでの自炊。西本さんにはたいへんお世話になりました。

ビール2リットル+ワイン1リットル/日 消費

※7 保険:労山以外にセブンエーの海外山岳保険12日間クライミング対応

傷害死亡1千万円/傷害後遺障害:1千万円/傷害治療費用1千万円/疾病死亡:1千万円/疾病治療費用:1千万円/救援者費用:1千万円/賠償責任:1億円

参考資料

・ルート図

『CLASSIC DOLOMITE CLIMBS』

Anette Kohler/Norbert Memmol 著, BATON



WICKS

『Dolomites West and East』

selected climbs by Ron James, ALPIN CLUB GUIDE BOOK

上記2冊は英文でアマゾンにて購入可能。より多く詳しいルート図が必要な場合現地にて、イタリア語、ドイツ語のルートガイドブックがある。

・記録及び雑誌、単行本

『BIG WALL CLIMBING』

ダグスコット/岡本信義 訳(山と溪谷社)

『ドロミテ エクスプレス 岩の王国を攀る』

森 徹也(「岩と雪」86号)

『ALPS SPECIAL DOLOMITE ITALY』

飯山建治(「ロックアンドスノー」8号)

『もう一つのドロミテ』小森康行(「岳人」454号～456号)

『星空の北壁』近藤 等(白水社)

『アルプスに光みなぎる時』近藤 等(東京新聞出版局)

『ヨーロッパの岩場』小森康行(東京新聞出版局)

・地図

神田神保町 三省堂にて下記の地図が入手可能

「Veneto」ミシュランの道路地図 20万分の1

TABACCO社の2万5千分の1地図

KOMPASS社の5万分の1地図



===== 計画の始まり =====

ドロミテ山群の事を知ったのは、20代前半の頃、山の会の先輩にダグスコットの『ビッケウォールクライミング』を譲り受け読んで知ったのが始まりでした。その後いろいろな地域へ登山に行きましたが、なんとなく行きそびれ30才の頃、登山から離れました。

48才になりプリムラ山の会に入会し登山を再開。しばらく経った頃、そういえば、ドロミテに行っていなかったな、行ってみたいなあと思いながらも、まだ越沢バットレスばかり登っている頃で現実的ではありませんでした。

会の中でヨーロッパアルプスの登山の計画がありました。それは、以前私が行った事のあるモンブラン山群での計画で、いまいち興味を持てませんでした。10月の下旬、伊豆の城山に登りに行った際、西本さんが、ヨーロッパでの登山の計画に手を上げていたけれど、自分の持っていたイメージと違う様な事を言っていたので、もしかしたらドロミテの計画を話せば、興味を持ってくれるかもしれない、と話したのが今回の計画の始まりでした。

===== 登ったルートの印象 =====

7月7日：

ドロミテクライミング初日の1ピッチ目からルートを間違え、懸垂して正規のルートに戻る有り様だった。6ピッチ目、ガイドブックにはリーダーの精神力を必要とする場所と書かれている。なんとなくルートは読めるのだが、ここまでの様に、つぎのピトンや確保地点も見えない。自分の勘を信じ、2～3メートルトラバースし、直上する。

上がってしまったら、クライムダウンは厳しいかなと思いつつ、また7～8メートルトラバースすると、岩穴に通したシュリングがあり、正規のルートを辿っていると安心し、35メートル程でビレイ点に着く。

7月8日：

なかなか取り付け点がわからず、登り始めが10時近くになる。セラ1峰から3峰までの縦走の予定が、2峰までで結構時間がかかり、そこから降りる。下降も懸垂したり、ロープを使ってクライムダウンしたりで神経を使う。下山途中で見たセラ1峰南壁が、たった6ピッチなのに、大きく見え圧倒される。



7月9日：

前日の予定では、セラ2峰の北壁に行く予定であったが、取り付きまで行ってみると、前夜の雨で壁は濡れていて厳しいかな、というのは表向きの理由で、内心はルートが読めず弱気になり壁に圧倒されただけである。

南面に行けば乾きは早いだろうと、前日見たセラ1峰の南壁に行く。さすが人気ルートで、取り付きで1時間以上順番待ちをする。核心部は自分の番に当たり、濡れているからと、なにも考えずA0となる。4ピッチ目の途中で雨が降り始め同ルートを下降する。あと2ピッチなので完登すれば、翌日登らずに済んだのに。

7月11日：

今回の山行で1番印象に残るルートである。3ピッチ目の核心は、西本さんの番になる。最初のランニングは10メートル程ザイルを伸ばしたところで、セカンドで登った私は、ここまでよくノーピンで行ったなという感じ。

その後ルートを間違えクライムダウンするも、スタンスが崩れ、その岩が私の肩に当たる。ビレイ解除のコールを聞いてホッとする。

次のピッチは、4級だからと気楽に行ったのだが、最後の中間支点からビレイ点まで10メートル近くあり、壁も結構立っていて、1手1手自分は落ちないと言い聞かせながらの登攀であった。

7月12日：

このルートは、上手く取り付きに行けるのかと、ルート終了後の下降の事が心配であった。長いルートの最初なので比較的容易なルートを選んだ。写真でみるとドロミテの8ツ峰Cフェースという感じ。コールが届かなく意思疎通ができなかったり、自分がルートを間違え30メートル近くクライムダウンしたりする。頂上にあったノートにサインをする。下降途中の草原は、ガイド



ブックに書いてあった花のカーペットはなく、羊がいて西本さんがしきりに話しかけていた。

7月13日：

夜半に雨が降り自分的には中止かなと思いながら寝ていたのだが、朝にはやんでしまい、なんとなく行ってみるかという気持ちで行く。アプローチも道路から15分で、容易なルートを選んだ。7ピッチ目西本さんは、途中でカムなどプロテクションも取れるのに、30メートル近くザイルをのぼす。

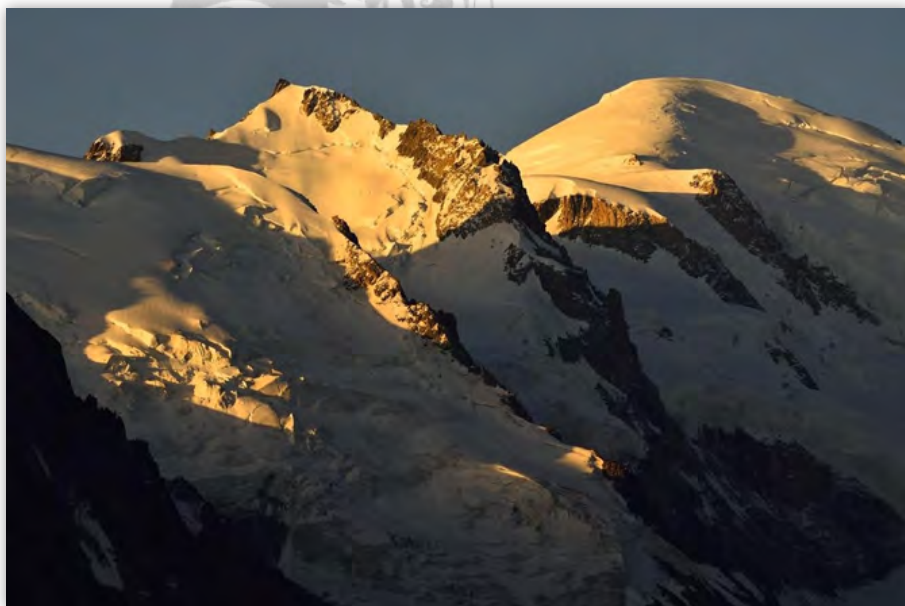
===== 登攀を終えて =====

行く前はそれなりに登れるだろうとか多少甘い気持ちもあったのだが、普段の実力通りの所しかのぼれず、ピッチグレード4級にびびったり、ザイル操作に手間取って、ルートの登攀に時間が掛かったりするなど、反省すべき点がたくさん有りました。これらを改善するには、登れるグレードを上げる事は勿論、ルートを見る目を養うために、ドロミテで多くの登攀をするのが1番かなと考えています。

いろいろな事がありましたが、楽しい12日間をすごせた、西本さんに感謝しています。

ヨーロッパアルプス撮影行 -1

モンブラン・シャモニ側・・・岡 孝雄



1. 朝光に輝くモンブラン

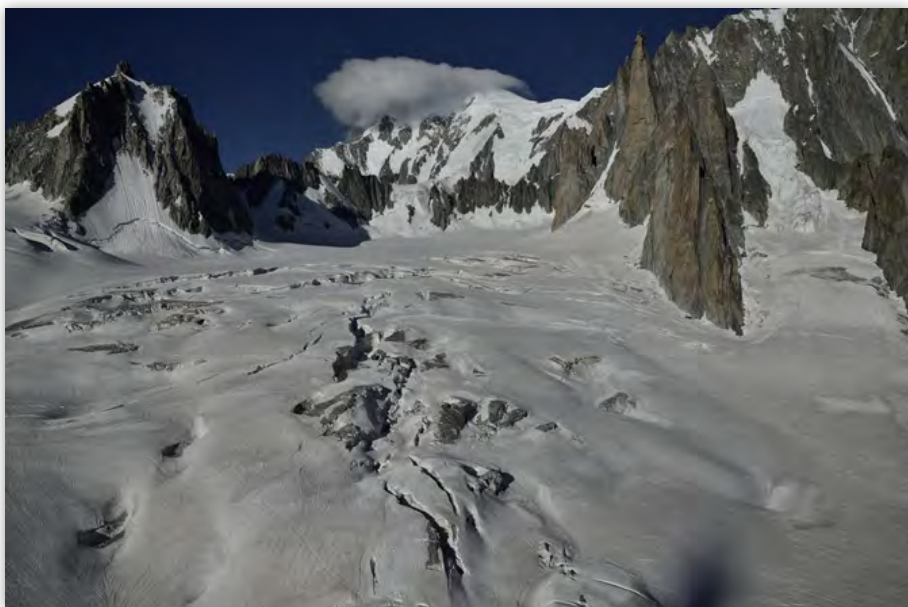
早朝から撮影していたが、光が廻りこみタキユル氷河にポイントを作った。

赤い色が消えないうちに撮影した。モンブランは大きい。(フェレジェールの小屋から)

2. クレパスの バレブランシェ

バレブランシュエ（白い谷）に走るクレパス。ツールロンド・モンブラン・グランキャピュサンなどに囲まれた広谷。

これほど鮮明にそして迫力あるクレパスを撮影できるとは思わなかった。



(ミディ -- エルブロンネル間ロープウェーから)



3. ボゾン氷河とモンブラン

モンブランよりシャモニの町近くまで流れ下るボゾン氷河。生きている氷河を実感する。

(アンデックスから)

4. モンブランを飛ぶ

ひととき目立つカイト。スカイスportsが盛んだが、良く見るとガイドと一緒に。モンブランより高く上がった位置(?)を待ち撮影。

やっぱり絵になる。(ブレバンより)





5. 至福のテント場（禁止箇所）

モンブラン山塊を映す池、ラックブランを撮影すべく行くが、池についたときにはモンブランはガスの中。途中赤いテントが張ってあった。ここで俺も寝てみてー！（ラックブランへの途中）



6. 女子隊が行く

シャモニの町を挟んだ対岸には、赤い針峰群と呼ばれる山域がある。中腹にはハイキングロードが整備され、緑と花畑の中を歩ける。10 数名のパーティを前景にモンブランを撮影。やっぱり若い娘達は良いねー！（ラックブランとフェレジェールの間から）

Primula 92

ヨーロッパアルプス撮影行 -2

モンブラン・イタリア側 . . . 岡 孝雄



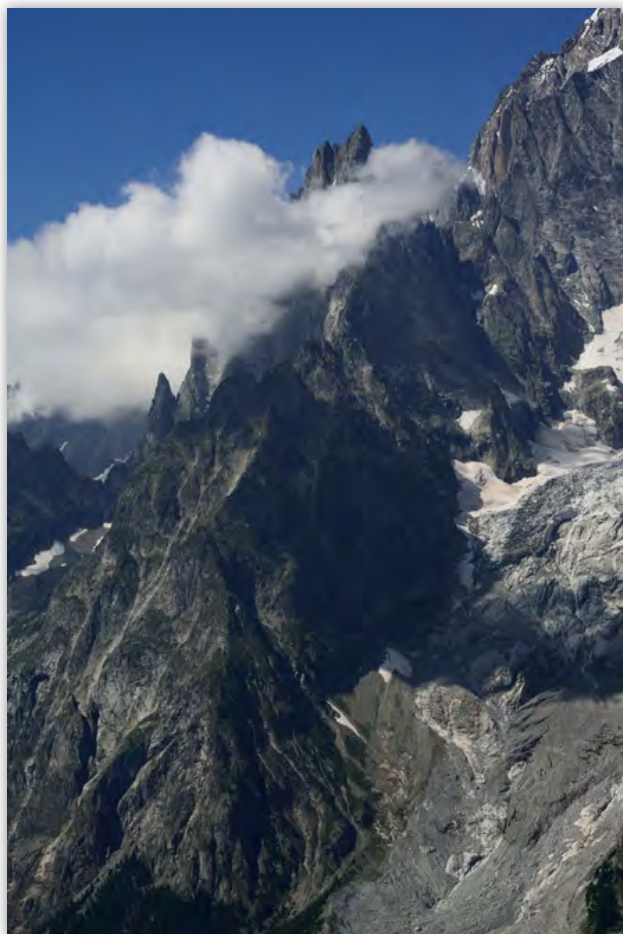
1. モンブランとタキユル

クーベルクル小屋（フランス）からのイタリア側のモンブラン。シャモニ側からよりも峻しく迫力がある。ロシュホール山稜の影のバランスを待って撮影。フルシュのコルへは足が揃わずに行けなかった。（クーベルクルヒュッテより・4 連泊した）

2. ブレンバ氷河と プトレイ山稜

イタリア側・クールメイユールからどうしても撮影したくて訪れたが南面だけあって雪の付着が少ない。それでもブレンバ氷河は目立ち、プトレイ山稜の存在は大きい。秋から初冬にかけては条件が整うだろう。（ベルトーネ小屋より）





3. プトレイ山稜

幾多のドラマを生んだプトレイ！日本人ガイド嶋満則も帰らぬ人となった。モンブランへ続く最長の岩稜。美しく毅然とした容姿。（ベルトーネ小屋より）



4. 朝焼けのモンブラン

想像していたより迫力はなかった。染まりはするがただ赤いだけ。残念。やはり雪が付くと存在感が増すに違いない。（CAI モンテビヤンコヒュッテ近くのホテル・パルコより）



5. ヤナギランとモンブラン

クールマイユールより急登 2 時間で（地図での予想より遠かった）ツールドモンブランで有名な山小屋に入った。ジョラス・モンブランを一望にでき、草原の広がる和みの場所だ。岡はあまり撮影しない花を前景に入れてみた。

（ベルトーネ小屋より・有名ガイドでかなり前に来日して、三つ峠でレスキュー講習。）

（明星山でのフリークライミング等。昔の記憶がよみがえった。）

（すでに故人で現在の小屋番ではなく、写真が飾ってあった。）

（他にもボナッティ小屋等もあり、過去の有名ガイドを称えるものなのか。）

6. モンブランを見ながら

モンブラン・イタリア側は山岳マラソン？（と言ったっけ??）が盛んだ。ロードはよく整備されて走りやすそう。マウンテンバイクも走っている。「景色を見ながら」まさにこれだ。



2013 ヨーロッパアルプス撮影概要記録			2013.0723 ~ 08.21		
月日	行動概要	移動	宿泊地	ホテル・ロジジ名	主撮影山岳名・概要他
7.23	成田発 8:50→北京着 11:45 発 13:30 ジュネーブ着 18:25 チャーターミニバス ジュネーブ発 18:45 シャモニー着 20:20	飛行機 ミニバス	シャモニ	La Crioix Blancye	中国国際航空 CA 422 ミニバス (予約済み)
7.24	アパート移動・レンタカー手配確認・準備など・観光局にて情報収集		シャモニ	du Brevent II	アパート (interhome) レンタカー (Eropcar) 10 日間断続使用マルチバス購入(後問題発見) モンブラン・ドリュー・針峰群 (共にシャモニへ)
7.25	シャモニ発 6:30 ミディにて撮影→エルブロンネル・トリノ小屋着 14:00 小屋前にて撮影	ゴンドラ	エルブロンネル	Ref.Trino	曇天・夕刻より回復 ダンディ・ジュアン・モンブラン・ドリュー等
7.26	起床 3:00 朝食 4:00 エルブロンネルにて撮影 5:30 ~ 7:00 ミディ 9:00 着撮影→ゼギューユにて撮影 アパート着 15:00 撮影	ゴンドラ	シャモニ	Apparemento du Brevent II	早朝出発の登山者多い。晴天 モンブラン東面・モンモディ・針峰群東面 ドリュー・ジョラス等・ペエイヌ・プレチエールの岩場 モンブラン・針峰群 (アパート前にて)
7.27	シャモニ発 8:00→モンタンペール着 9:00 梯子上 9:40→レシヨ氷河二股 12:45 クーベルクル小屋着 17:15	登山電車 トレッキング	クーベルクル小屋	Ref.Couvercle	メールドグラス氷河への下降ルート間違え (青標識・正) 梯子は始めアンザイレンしたが、時間と体力消耗等考慮。各自セルフビレイを取りながら下降。各箇所アンカー ボルト・残置カラビナあり。氷河上は問題なく、6 本アイゼンでも十分。梯子の登下降は技術的問題はないが危険ではある。梯子終了箇所から小屋までが長い。ジョラス・シャルモ・ドリュー・グレボン・ペエイネ等。
7.28	雲多し・小屋にて待機・降雪あり		クーベルクル小屋	Ref.Couvercle	絶好の撮影地
7.29	雲多し・小屋にて待機・降雪あり		クーベルクル小屋	Ref.Couvercle	タレーフル氷河→ベルト・ドロワット・クルト針峰群 レシヨ氷河→ジョラス・マルガリータ・ジュアン
7.30	朝方雲多し 7:00 頃より晴天 北方面の草原にて撮影		クーベルクル小屋	Ref.Couvercle	バレブランシュ・モンブラン・針峰群等
7.31	朝快晴撮影小屋発 8:40→梯子上 9:40→下 10:40→氷河梯子下 10:40→昼食→15:00→モンタンペール駅仮眠	トレッキング	モンタンペール駅舎	駅舎	夕刻・夕日のドリュー・シャルモ
8.1	朝撮影→モンタンペール発 10:00→アパート着 11:00 岡 = プレバン往復	登山電車 ゴンドラ トレッキング	シャモニ	Apparemento du Brevent II	朝方→ドリュー・ベルト・シャルモ モンブラン・針峰群
8.2	シャモニ発 6:50→グラモンテ 8:00 岡 = アルゼンチェール小屋往復 鈴 = プレバン→ペラチャト小屋	バス ゴンドラ トレッキング	シャモニ ペラチャト 小屋	Apparemento du Brevent II Ref.Bellachat	朝→シャモニバスにてアルゼンチェール・グラモンテ グラモンテ→ドリュー・ベルト・モンブラン・針峰群 アルゼンチェール氷河→グラモンテより氷河下降(粗容易)
8.3	岡 = モンタンペール往復 鈴 = ペラチャト小屋→アパート	登山電車 ゴンドラ	シャモニ	Apparemento du Brevent II	天候思わしくないが、モンタンペールでの花とドリュー撮影。マルチバス問題発覚。(岡変更終了・鈴変更したが不備)
8.4	鈴 = マルチバス変更 フレジェール・アンデックス	バス ゴンドラ		Apparemento du Brevent II	鈴 = マルチバス変更 (日本人係員対応) アンデックス→モンブラン・針峰群・ベルト・ドリュー等
8.5	岡 = グラモンテ→アンデックス→シャトレゼ小屋 鈴 = ミディ→ゼギューユ→プレバン→ペラチャモ小屋	バス ゴンドラ	フレジェール	Chalet de Flegere (現金決済) Ref.Bellachat	グラモンテ→ベルト・ドリュー・モンブラン・針峰群 フレジェール→ジョラス・ベルト・モンブラン・針峰群

8.6	岡＝ラックブラン→フレ ジェール→シャモニ 鈴＝ ペラチャモ小屋→シャモニ	トレッキング ゴンドラ	シャモニ	Appare mento du Brevent II	朝→モンブラン・ドリユー・ジョラス ラックブラン→湖～モンブラン等・草原と花 帰国時のバス手配・菊池・朝山さんとの出会い
8.7	グリンデルワルトへ移動 シャモニ 11:00→グリンデ ルワルト着 18:00	レンタカー	グリンデルワルト	Hotel Alpenblick	アバートレンタカー→手続 マルチーニ・インターラケンにて道迷い(一般路) 交差点・車幅で不慣れ。
8.8	小雨のため市内観光		グリンデルワルト	Hotel Alpenblick	日本語観光案内所にて情報入手
8.9	ゴンドラ発 9:00 フィング スデック ペーレック小屋 着 11:15→シュレックホル ン小屋中間まで	ゴンドラ トレッキング	ペーレック小屋	Ref Bearegg	天候不順だが行くことに決定。 ペーレック小屋～1時間ほどの地点まで往復、夕刻虹 が出て明日の晴天が期待できる。
8.10	岡＝シュレックホルンヒュッ テ中間まで→グリンデルワ ルト 鈴＝グリンデルまで下り→ クライネックシャデック	ゴンドラ トレッキング	グリンデルワルト	Dawn Town Lodg	シュレックホルンヒュッテ迄と出発したが、途中懸垂氷 河の箇所まで引き返す。(急登が予想されるため) 1977 年に来た時よりも大幅に氷河の後退がみられる。ガッカ リ! フィンステラーホルンと氷河の撮影。フィッシャーホ ルン・アイガー・メンヒ・等。待ち合わせに失敗して時 間ロス。格安のベッドハウス(鈴現地予約)泊。
8.11	グリンデル発 9:00→マイ リンゲン 10:40→シンブ ロン峠 15:35→マクニャー ガ 17:30	レンタカー	マクニャーガ	Hotel Signal	高速道路を使用し、途中シンブロン峠では展望を楽し む。(シンブロントンネルは鉄道のみ使用のようだ) マク ニャーガは信仰と観光地のように混雑(日の関係か) 鈴 木の奮闘でホテルが確保できた。(予約なし)
8.12	Hotel Pecetto リフト発 9: 00→Belvedere (2機乗 車)→花とモンテローザ 撮 影→Ref Zamboni 各自着	リフト トレッキング	ザンボーニ小屋	Ref Zamboni	リフトを2機乗継、モレーン上にて撮影。モレーン上を 草原状に広がる氷河跡の小屋へ。花とモンテローザ(雪 が少なく期待を裏切られる)
8.13	朝モレーン上で撮影 5:30～7: 00→小屋発 9:00 花撮影 →ホテル着 14:00	リフト トレッキング	マクニャーガ	Hotel Signal	朝方雲多いが後晴天・ガス湧く
8.14	ホテル発 9:10→イウエー →シャチオン→クールマイ ユール着 12:00→登山口 14:30 ベルトーネ小屋着 16:30	レンタカー トレッキング	クールマイユール	Ref Bertone	クールマイユールに早く着いたので、ベルトーネ小屋ま で思っていたより高度差があり熱い中たどり着く。モン ブラン・ジョラスの東面が見渡せるがガス。ベルトーネ・ ボナッティ小屋などのネーミングがあるが記念の小屋な のか? ツールドモンブランの良さ宿泊小屋。
8.15	朝方小屋裏手の展望地に て撮影 岡＝ベルトーネ 小屋の北東にあるピーク (2255m) まで往復 鈴＝ ボナッティ小屋方面往復	トレッキング	クールマイユール	Ref Bertone	朝方雲多いがモンブラン・ジョラス東面撮影 小屋東北面のピーク迄(もう少し行くと湖が) 花と山岳の撮影・ピクニックには最高 全体的に岩場に雪がなく、秋冬の撮影が最適か?
8.16	ベルトーネ小屋発 9:30→ 駐車場 10:30 クールマイ ユール→ベニ谷→ACI小屋 上部 Pre de Pasucal I (車 乗入可)	トレッキング レンタカー	クールマイユール	Pre de Pasucal	駐車場よりベニの谷に入り地図上で探したホテルへ マンブラン・フレネイ山稜が眼前にあるが写真になりに くい
8.17	ホテル発 9:10→チェルビ ニア着 11:30→ゴンドラ 12:30→プラトローサ小屋 13:30	トレッキング レンタカー	チェルビニア	Ref Plateau Rosa	朝方ジョラス・モンブラン撮影赤く焼けるが立体感に乏 しい。一般路をチェルビニアへ。ツエルマットの反対側 に位置するが、スキー場の草原があり、趣をだいふこと にする。途中駅の花畑は美しい。スキーガイド組合の小 屋に泊まる。ブライトホルンは眼前ガスがわき撮影困難
8.18	朝方小屋東にて撮影小屋発 8:30→中間駅にて花とマッ ターホルン撮影→駐車場(無 料) 着 10:00→シャチオ ン→アオスターグラン・サン ベルナード峠着 13:00	レンタカー	サンベルナード 峠	Hotel Itaria	モンブラントンネルを通らずにシャモニに帰るルートと して スイス・イタリア国境の歴史的峠を選んだ。山岳 写真には適さないが、中世がしのばれる
8.19	ベルナード峠 7:30→マ ルチャーニ→シャモニ 10: 30→レンタカー返却→散策	レンタカー	シャモニ	La Croix Blanche	雨の中シャモニへ。ガソリンスタンドが街中に少なく苦 労レンタカー返却(補償金?返却)
8.20	買い物・荷物整理等。バ ス発 17:00→ジュネーブ 発 20:25→北京 12:25 着	バス 飛行機	機内		買い物荷物整理 チャーターバスにてジュネーブ
8.21	北京発 16:45→成田着 21:00	飛行機			北京乗換で成田(手荷物検査厳しい)

Primula 92

相模川水系笹子川 大鹿川ズミ沢 (平ツ沢)

・・・市瀬 江利子

日程：2013年7月15日

1/25000地図：笹子

メンバー：初鹿、山里、平、市瀬

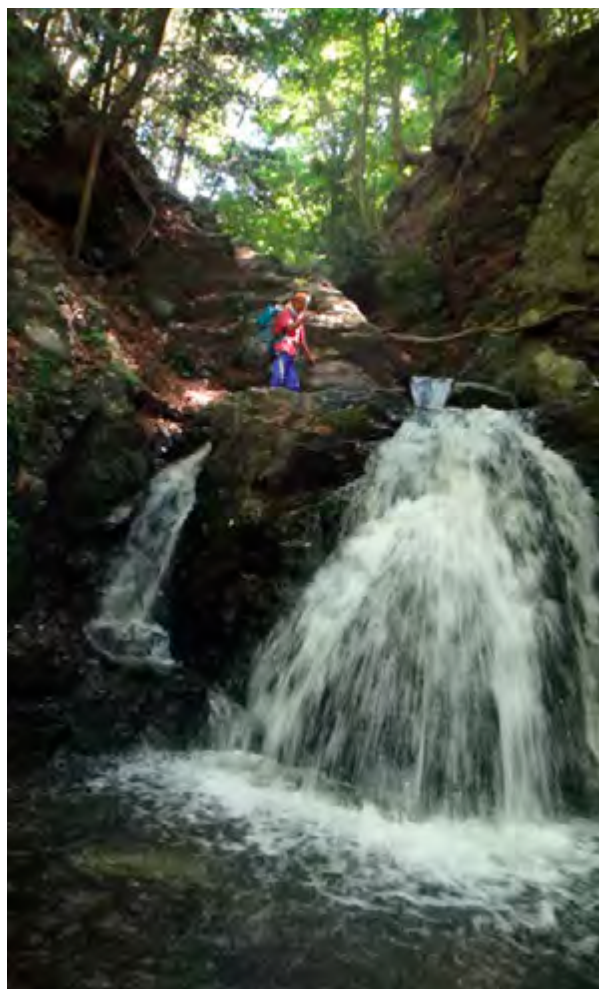
コースタイム：登山口(9:05)---男鹿沢入渓
(9:15)---2段大滝12m(11:20-11:50)---終
了(12:50-13:30)---登山口(14:15)

ほぼ3年ぶりの沢。絶対に怪我しない安全なところ
がいいと、無理なお願いをしたところ、このズミ沢が
候補に上がった。調べてみると、初級者をガイドが連
れていたりしている沢で、遡行時間も短く、しかも
直ぐ脇には登山道が並行していることがわかり、今の
私にはうってつけの沢である。

3連休の最終日に日帰りの沢に付き合ってくれる人
なんていないかと思っていたら、山ちゃんと平ちゃん
が参加してくれることになった。久々に大勢での遡行
で楽しそうだし。しかも簡単そうだし。

大月のインターを降りて国道20号を進み、原入口
のバス停を右折し大鹿林道に入る。途中砂利道になっ
たり、舗装道路になったりするため、少々不安になる。
右側に広いスペース(車4台分ほど)が出てきて、奥
に看板らしきものが見えた為ここに駐車する。そこから
数十メートルの右側に道証地蔵がある。

地蔵から登山道に入ると、すぐに大鹿沢を渡る橋が
あり、遡行図ではこの先の登山道で入渓と書いてある
が、私たちはここから入渓した。暑いので、沢に降り
ると涼しくて気持ちがいい。ズミ沢を分けるまでに直
登できる滝がいくつかあり、ズミ沢に入ってから、
おのおの、直登したり捲いたりして登って行く。
水量はそれほど多くないようだった。登山道が



山ちゃんスタイル

交わる入渓点には、橋があるのですぐにわかる。こ
で一休みしてから遡行を続ける。

2段6mは山ちゃんのみ直登し(ちょっと際どそう)、
他の人は左から捲く。いくつかの滝を直登&捲いた後、

大滝2段12mはロープを出す。バンドまでは一
番右側のクラック沿いに行き、そこから水線通し



には行かず、そのままさらに一番右側の岩の間を直登した。バンドに一か所ハーケンで支点が取れた。

ここは、山ちゃんリードで初鹿、平、市瀬が続く。その後、はっちゃんだけ直登したスラブ滝は右から越え、後はナメを歩いて終了。

ナメは水量が少なかったせいか、思っていたよりも小規模だった。本当にすぐ脇に登山道があるが、こちらは廃道に近いルートで砂地が崩れていてかなり歩き

鎮座のカエル
づらかった。頂上からはこちらを通らずに通常の登山道のほうが賢明そうだ。

しかし、登山道からみた滝はかなり迫力があり、こんな危なそうなところを登ったのかと、後から見るとちょっとびっくりです。

とにかく、久しぶりの沢で、大勢でわいわい登れて楽しかったのですが、アクアステルスはナメには適さないことを再確認しました。

Primula 92

夏休みはカナディアンロッキーで

・・・小堀 和貴

日程：2013年7月30日～8月13日

メンバー：小堀、ほか1

最初から計画していた、佐藤さんが行かれなくなり、杉並山の会の栗原さんと2人だけになる。栗さんとは30年前にパキスタンのディラン北稜へ行って以来の友人であり、また一緒に海外の山に登りに行くことになるとは、信じられない気持である。

2人とも、カナダは初めてなので、期待に胸を膨らませて、7月31日羽田発午前1時30分のデルタ航空で、シアトルへ。時差の関係で30日午後6時45分着。荷物の受け取りで、空港内の地下鉄に乗らなくてはならず、バタバタしたが、なんとか受け取れた。

アラスカ航空に乗り換えてカルガリーに向かうのだが、31日午前9時10分発なので、空港内で仮眠。

翌朝、空港内のATMで米ドルで10\$だけ出して、ホットドッグとジュースで朝食を済ます。アラスカ航空は、50人乗りくらいのプロペラ機で、ターミナルから一度降りて歩いてタラップ迄行き乗り込む。離陸して上昇するときに、ウ、ウとなり危なかったが、なんとか大丈夫だった。どうもこういうのは苦手である。

眼下に山が見えてきて、しばらくするとカルガリーに到着。11時50分。予約してあったレンタカーを借り(ダッジの黒の4ドア)、遥か東に見える山々に向かって一直線の道路を走る。

ナビ付きのを借りたのだが、空港内からハイウェイに出るまでが、有料駐車場に入っちゃったり、渋滞だったりして、ドキドキしながらも、なんと

かフリーハイウェイに乗ることができた。

ナビも日本語表示が付いていたので助かる。交通量は少ない、途中のスタンドで運転を栗さんに代わり、3時間かからないで(距離120キロ位)キャンモアに着く。

これから、2週間滞在することになる、ホテルマウンテンビューインにも、ナビのおかげで迷わずに行け、早速チェックインをする。通りに面した30部屋位の2F建で、2Fの一番奥の部屋であった。ロビーにある、コーヒー、お湯、製氷機は、自由に使っていいと言われる。

今回行くアシニボインは、カナダのmatterhornと言われ、グレードは、二級から三級の岩稜登りであるが、小屋からの往復が12時間と長く、結構アプローチで迷ってるパーティもあり、朝早く出てルートが解るだろうかと不安だったので、ガイドを頼むことにした。

日本で予約をしておいたガイド会社は、偶然すぐそばだったので、顔を出して、登山用品店を教えてもらう。

カナダの山岳ガイドの、技術、登り方など、いろいろ楽しみだ。

アシニボインの計画は、6日にガイドとゲレンデ、7日ハインド小屋、8日小屋～登頂～小屋、9日ハインド小屋～下山という予定なので、翌日、スーパーで買い出しをして、Mt.アサバスカ登山へ行くことにする。

途中、料金所があり国立公園に行く車は、入園料を払う。だいたい大人1日10\$。

コロンビア氷河のビジターセンターでは、下から見るとルートがあるように見えないので、しつこく登る予定の AA ルートを聞いたりしてからキャンプ場へ行き、テントを張る。

各テント場ごとに、駐車場が付いている。ガラガラだったのが、夜、ぞくぞくと車が入ってくる。その音で、12 時位まで眠れない。

朝 4 時に起きて、教えられたように空いているゲートから入り、途中の空き地に車を止める。Mt. アンドロメダのほうから、回り込んでいくので AA ルートというらしい。ケルンを目当てに登っていったが、途中から見失い、急なガラ場に入ってしまう。登っていきと行き詰まったので、とりあえず氷河の末端のほうに降りて行ったら、下から見て登れるように見えなかった、氷河の左側の岩場に、しっかりしたルートがついていた。

上の氷河上でアイゼンを付け、稜線直下まで行く。かなり遅れた栗さんが小さく見える。2 個ほどクレバスがあったが、まだ狭い。12 時近くなってしまう、雲もずいぶん出てきた。栗さんも調子がでないみたいなので、無理することもないと思い、引き返すことにする。コロンビア氷河の大きな雪上車が小さい点になって見える。

車は、ビジターセンターと雪上車（スノーコーチという）に乗り換える所迄の、空き地（日中は自動ゲートがあってビッグバスしか入れない）に置いてあるので、そこまで道路上を歩く。そして出るときは、ビッグバスの後ろについて一緒に出ていけばいいらしい。日本だったら、絶対に入れてくれないのに、さすがカナダは違う。

ビッグバスが来たのでドライバーに合図をして、後ろについていく。ゲートが開いた時、ちょっと離れてしまい、通る時バーが下りてきて屋根に当たってしまった。キャンプ場について屋根を見たら、30 センチ位のアンテナが折れてて、あわてて戻り、道路に落ちていたのを拾ってくる。

毎日、午後 3 頃になると、黒い雲が湧いてきて雨が降ってくる、というパターンが多い。日の出は 6 時 10 分、日の入りは 9 時 50 分。

明日は、ロブソンを見に行くことにする。

午前 5 時 30 分に、キャンプ場を出て、ロブソン州立公園に向かう。走り出してすぐに雨と霧になる。標高が高かったのか、30 分も走ると天気は良くなる。

車窓から朝陽を浴びる山々と、広大な景色を見ながら走ること 2 時間位で、ロブソン山の観光案内所に着いた。

ケインフェースは、こちら側からは見えない。さすがに大きい。にぎやかな中国人ツアーの観光バスがでていったあとの、静かなカフェレストランで朝食を食べていたら、次のバスがやってきた。こちらは白人のツアーだが、あっという間にいっぱいになり、騒々しいので、早めに出てキャンモアのホテルへ帰ることにする。

途中、写真を撮りながら、昼にはホテルに戻り、シャワーを浴びてから荷物の整理をして、夕方、ダウンタウンへ食事に行く。

たまたまメキシコ料理の店に入ったら、日本人の女性が働いていて、彼女は山が好きでよく登りに行くらしいので、ハイキングルートを教えてもらう。

町から、西に見える岩山で、ハリングピークというのだそうだ。どう見てもクライミングじゃないと無理のようだが、裏側からは地元の人もよく行くハイキングルートがあるのでだいじょうぶですよと言う。

2～3 時間で下の駐車場から行って来られるということなので、ノルディックセンターの前からグラッシーレイクの脇を通って行く道を教えてもらう。

明日行くことにして帰る。（後で知ったが）有名な地ビールの店、グリズリーポウに人が並んでいた。

翌日は、ハリングピークのハイキング、ノルディックセンター（カルガリー冬季オリンピック

のノルディックスキーの会場)で、たまたまやっていたトライアスロンをみる。女性の選手がすごく多いのには驚く。疲れきってゴールしてくる選手たち、おもわず拍手をする。

昼食はノルディックセンターで、夕食はもちろん、グリズリーボウで。ここの地ビールは、たしかにうまい。こういう店でも、年配の夫婦で来てる人が結構いる。

年寄り2人のキャンモアライフは、酒ばかりではなく、ランニングしたり、市営のクライミングジムにいたり、市主催のフォークフェスティバルにいたり(入場料45カナダ\$)と、動き回っていた。

キャンモア雑感

街中では、道路を渡るとき歩行者がいれば、車は必ず止まってくれる。

信号があるところでは、歩行者は、渡るとき渡るほうのボタンを押す。押さないと変わらない。

コインランドリーの洗剤の香りがすごくいいので、2度も行ってしまった。

クライマーが来て、ザックの中のもの、シューズ、ロープ、ウエア全部入れて洗っていた。

郵便局は、スーパーのなかにあり、全然わからなかった。

酒は、スーパーでは売ってなくて、酒店のみ。サッポロドライの缶があった。

プリペイド型外貨ATMは、シアトル空港、ジャスパーとキャンモアの銀行ATMで使用したが、必要な分だけおろせて、スペアカードもついているので、安全で安心であった。

ホテルに張り出される週間天気予報だと、6日から8日までは、雨60%になっている。

天気が悪く、ヘリが飛ばないときは、別の山になってしまう。

To be continued

Primula 92

滝谷ドーム中央稜、第1尾根と前穂高岳 北尾根 4 峰正面壁松高ルート

・・・佐藤 正俊

日 時：2013 年 8 月 11 日（日）～16 日（金）

山 域：北アルプス

メンバー：平、佐藤ほか 2 名

行 程：

- 10日 22時、各自ピックアップで東京発、
沢渡足湯駐車場でテント泊
- 11日 上高地→涸沢、テント泊
- 12日 5,6の科尔→4峰正面壁取付→松高ルート→
4峰下降→5,6の科尔→涸沢
- 13日 北穂→ドームの科尔→ドーム中央稜取付→
ドーム→北穂→涸沢
- 14日 休養日
- 15日 北穂→B沢下降点→第1尾根取付→
1尾根ダイレクトルート→北穂→涸沢
- 16日 涸沢→上高地→帰京

1. 涸沢まで（8月10～11日）

今回は平ちゃん、佐藤、M組長、Tさんの4人で涸沢に5泊し、奥又白、滝谷クライミングに行く事となった。土曜日（10日）の晩に東京を出発。組長のアウトランダーの広い車内はすこぶる快適で、深夜、沢渡の足湯駐車場に到着、テント泊。

11日は涸沢までの辛い荷揚げ。最大限軽くしたつもりだがギアやロープそして5泊分の食料でザックは30キロを超えている。本谷橋を越えてからは重荷と急登に喘ぎ30分おきに休憩し午後3時過ぎにようやく涸沢に到着する。明日の登攀に備え夕食は豪華鮭の野菜蒸しと穴子混ぜご飯を食し就寝する。でもアツと言う間に起床時間を迎える。

2. 前穂高岳北尾根 4 峰正面壁、 松高ルートの登攀（8月12日）

星が瞬く4時30分にテントを出発する。平ちゃんは前穂北尾根の5,6の科尔雪渓登りでアイゼ



前穂北尾根4峰正面壁

ンを付けたが、他の3人はノーアイゼン。途中ツルツルの凍結斜面もあって肝を冷やすが、何とTさんはアプローチシューズのまま登りきる。Tさん恐るべし！！そして6時過ぎに5,6の科尔に着いて一休み。北条-新村行の先行3人組に挨拶する。

5,6の科尔を下降して奥又白側に回り込み、C沢の急な雪渓登りは全員アイゼンを装着する。昨年はノーアイゼンで怖～い思いをしたC沢も12本歯のお蔭で全く不安が無い。C沢上部のガラ場通過で少し時間を使うが、ここから二手に分かれ、Tさんと佐藤は松高ルートに、組長と平ちゃんは北条-新村ルートの登攀となる。

松高ルートはTさんの配慮(?)で佐藤のオールリードとなる。何処でも登れてしまうため却ってルートが判りづらい。古いハーケンを頼りに途中から左のリッジに回り込むと有名な松高ハングに辿り着く。ハングは2～3手で抜けその後は直登するとあっけなく登攀終了となる。登攀時間は約3時間。終了点で平組が来るまで2時間ほど休憩。平組もルートが良く判ら



北穂滝谷ドーム



大キレットと槍

なかったようだ。合流後は4人で前穂北尾根4峰を下り5,6の科尔から4時過ぎに涸沢に下りてナガ〜イ1日が終了する。先行の北条-新村ルートの3人組はもっと遅かったようだ。

なお、この晩、午前零時にペルセウス座流星群観察のため全員起こされる（僕はとても眠かったでチュ）。その甲斐あって大きな流れ星を1個拝見いたしました。

3. 滝谷ドーム中央稜の登攀（8月13日）

連日の疲れを考慮し今日は5時起床、6時半出発の遅出となる。北穂の斜面を登って行くと重そうなザックを担いだ昨日の3人組に遭遇する。3人組は天場を涸沢から北穂小屋に移し、今日は我々と同じドーム中央稜を登り、明日は滝谷第4尾根、そしてその後は槍

から大天井、上高地まで縦走する7泊行程だそうだ。あまりの元気さに目が点になってしまった。

我々は北穂小屋で小休憩を取り、ドームを過ぎて中央稜取付きへの下降を開始する。踏み跡が複数ありクライムダウンなどで少し迷うが30分程で下降支点を発見する。40mほど懸垂下降して尾根を回り込むと大きなクラックの中央稜取付に到着する。ここからは組長、平ちゃんとTさん、佐藤の2パーティで登攀する。

「佐藤さん先行する？」との組長の暖かいお誘いは鄭重にお断りし組長に先を譲る。1ピッチ目のチムニー出口がイキナリの核心でかなり難しかったが全員難なく通過。12時半には快適な登攀を終了する。登攀時間は約2時間。



ドーム中央稜の取付き



ドーム中央稜 1ピッチ目



休養日の涸沢

登攀中に4尾根のアプローチとなる滝谷C沢を観察する。狭くて急なルンゼの中に3～4mの大岩がゴロゴロ詰まっていて登攀中にも大規模な岩ナダレが発生している。怖くてとても下れそうな代物ではない。

明日は疲労回復のための休養日とし、4尾根の代替えルートを考える事とした。なお、休養日のおじさん酔っ払い3人組は、平ちゃんに大分嫌われたようだ。

4. 滝谷第1尾根 ダイレクトルートの登攀（8月15日）

滝谷4尾根の代替えは第1尾根となる。C沢より急な滝谷B沢の下降となるが下降距離は短い。危機察知能力の高い平ちゃんは北穂高岳～涸沢岳の単独行となる。

平ちゃんに見送られ、朝4時半に組長、Tさん、佐藤の3人が出発する。入山してからずっと晴天が続いていて、北穂山頂ではまたしても例の3人組に遭遇する。昨日は予定通り第4尾根を登ったがC沢下降の支点工作に時間がかかりテントに戻ったのは20時過ぎだそうだ。これから重いザックを背負って大キレットを越え槍ヶ岳から大天井、上高地に向かうとの事。彼らの無事を願わずにはいられないが、多分大丈夫だろう。

B沢の下降地点には立派な白ペンキの案内がある。3人ひと塊で慎重にB沢下降を開始する。周囲の岩は本当に脆く、どんなに注意しても落石が避けられない。大規模な岩ナダレも頻発している。上から岩が降って来ない事を祈るばかりだ。途中右岸に懸

垂支点があり、20mほど懸垂下降する。その先の左岸にフィックスロープが見えたがロープの手前から左岸を登り、その先から2回懸垂下降して何とかトラバース道の踏み跡に出る。直接フィックスロープを登った方が早かったようで、クラック尾根には3パーティほどが付いている。ロープ確保でクラック尾根を回り込み、ようやく第一尾根の取付きに到着する。この奥に聳え立つP2フランケは崩壊で登攀不可能との事だ。

相談の結果、前半の3ピッチを佐藤が、後半の3ピッチは組長がリードとする事になる。前半の3ピッチ目が核心（5級）で佐藤が2本のロープを引いて登攀を開始する。1ピッチ目は40mほどで確保点に着く。2ピッチ目は見た目にも脆そうなルンゼで、しかも出口は結構カブっている。中間点を過ぎるとルンゼは傾斜を増し、脆さも益々酷くなってくる。いつ落ちてもし不思議じゃない大岩が沢山吊り下がっていて後戻りは不可能だ。ルンゼの出口までロープが足りるかギリギリだが、運を天に任せて登るしかない。幸いにもルンゼを抜けると直ぐRCCボルト2本の確保点があって胸を撫で下ろす。ロープの残りは僅かに1mほど。2ピッチ目は3級でこんなに難しいはずはないと思っていると、この先は直ぐに緩斜面帯になって3ピッチ目が消滅してしまった。あとで確認するとどうやらノーマルルートではなく、間違ってより難しく脆くて危険なダイレクトルートを登ってしまったようだ。登攀中に気付かなかったのが却って幸いかもしれない。

後半3ピッチもかなり脆く、組長も結構難儀している。頂上直下では1m位の大岩が派手な轟音をとどろかせて落下して行った。

5. 感想

初めてこの目で見た滝谷は本当に脆く、著しい崩壊が進行しているのを実感した。安心して登れるのはドーム周辺やせいぜいクラック尾根位だろうか。また平ちゃんの危機察知能力の高さは特筆すべきかもしれない。来年5月には滝谷第4尾根に再挑戦する口約束までしてしまっただが、まるまる1週間を晴天と素晴らしい景色で迎え入れ、そして怪我も無く無事に登攀する機会を与えてくれた穂高の荘厳な岩峰に感謝したい。

Primula 92

穂高の岩登り

・・・たいら まり

日程 2013年8月11日～16日
山域 北ア・穂高
メンバー 佐藤、平、ほか2

8月11日晴れ

上高地08:00～横尾～15:00涸沢
沢渡の駐車場から上高地へタクシーで向かう。

上高地から平坦な道を横尾まで辿る。本谷橋の袂から急登の始まり。5泊分の荷物が応え、ペースは全然あがらず、徐々に遅れてゆく。高度計を睨みながら、30分ごとに休憩。小屋の旗印が見えてからが長い。小屋直下の雪渓を越えたところで、我慢しきれずザックを下ろす。ようよう出発したら、間もなく小屋に着いた。

テントで溢れている涸沢に適地を求め、テントを張る。15時過ぎ。明るいうちに夕餉を済ませ就寝。下の岩のせいで寝心地はあまり良くない。

8月12日晴れ 前穂4峰正面壁

涸沢04:30～06:00V-VIの科尔～C沢出合08:50～取付き～終了点13:00～V-VIの科尔15:30～涸沢16:30

4時半過ぎに出発。早くも薄明るい。テント場の脇から雪渓。初めこそアイゼンもつけずに歩いたが、傾斜が急になり凍った雪面が出てきたので、迷わずアイゼンを装着する。4人のうち私が最後尾。

V-VIの科尔で、先行パーティと出会う。北条-新村ルートだとか。ここからザレた斜面を下り、途中のトラバースでは佐藤さんにロープを出してもらい、C沢に辿りつく。ここでアイゼンを着けて登りにかかる。12本爪の佐藤さんの足取りが軽い。思い思いのところを歩き、岩場の前に着く。雪面が割れていて、岩伝いに進もうとするが行き詰まり、クレバスの下をくぐってしまった。



V-VIの科尔の朝

松高ルートへ向かう2人と別れて、北条-新村ルートを目指して先に進む。リングが2本ある取り付けでひと休み。1ピッチ目草つき。登り出しからかなり悪くて閉口するが、リードが脆い岩を避けて登ったためらしい。2ピッチ目、やはり草つき。ビレイポイントにつくと、なぜか左の松高ルートを登っていたはずの佐藤さんたちがすぐそばに。軌道修正して、3ピッチ目。ほとんど真横にトラバースすると明瞭なピトン。ここから直上、4ピッチ目。広いテラス上、わずかなハングには、シュリングがたくさんぶら下がっている。ここぞアブミの使いどころとばかりに、ひっかけて登る。さらに次のピッチ。若干かぶっているものの、アブミの出し入れが面倒なので、シュリングをつかんで登る。テラスに出るところでまごつくかと思ったが、力任せにいったらあっさり抜けた。さらに上がると広い休憩どころ。

ここから最後のトラバースで、リードが右に進むが、とても登られているようには思われないという。



前穂4峰



ドーム中央稜出だし

終了点には、古いシュリングが幾重にも巻いてある。ここで荷を解いて大休止。疲れきっていて、明日は遅出にして、滝谷ドーム中央稜と決められた。ここから岩稜帯を歩き、稜線に出たところで、松高ルート of 2 人に会う。まさか待っていてくれるとは思わなかった。

北尾根を下り、III-IV のコルから下りようというライダー案には、こぞって反対し V-VI のコルへ戻る。休憩も許されず、そのまま沢の出会いまで。そこでアイゼンを履いて、17 時ごろ涸沢に着く。長い 1 日だった。

8 月 13 日 晴れ 滝谷ドーム中央稜

涸沢 06:30～北穂～下降点のコル～ドーム中央稜
取付き 10:30～終了点～北穂山頂～涸沢 16:00

遅めの起床で、北穂への登山道を辿る。人の間を抜いたり抜かされたりしながら登る。昨日の疲れか、息があがって仕方がない。稜線にたどり着き、下降点となるのコルを目指し、涸沢岳方面へ向かう。稜線上も、登山者の往来が激しくすれ違いに気を使う。

鞍部から、トラバース気味に下る。踏み後は明瞭で、逆にいくつもあって迷うくらい。慎重に下りて、懸垂支点にたどり着くと、ロープ 2 本で長めの懸垂。そこからいくらか歩かないうちに、ドーム中央稜の基部にたどり着いた。

1 ピッチ目。凹状のクラックからスタート。フォローで登るも出口にザックが引っかかって苦しむ。少し歩いて、2 ピッチ目。昨日に比べ、岩が硬くて安心感がある。後半はスラブっぽくてかなり細かい。手

がない、と叫ぶ。3 ピッチ目はほとんど歩くよう。4 ピッチ目、最後は岩をかかえるようにして出る。ここは任せ。5 ピッチ目最終。真っ直ぐ上を目指して、終了。

少し先に進んで日陰でひと休み。ギアを外し、北穂小屋を目指す。

北穂小屋で休んだあとは、登山道を下るだけ。しっかり疲れていてひとり遅れる。テント場が見えてからも長い。16 時ごろによく涸沢に。明日は休養日となった。

明後日予定の滝谷第四尾根は、再度検討。きょうの状況からみて、いかにも崩れそうな C 沢の下降を避けたかったのだ。結局、滝谷第一尾根を登るというのだが、B 沢の下降で難儀しそうな私は遠慮することにした。

8 月 14 日 晴れ 休養日

きょうも快晴で、登らないのがもったいないくらい。でも昨日北穂の登山道で疲れ果てていては、さすがに登れない。ゆっくり起床し、寝心地がよくないままの敷地から、テント適地を求めて、テントを移動。テント前に日よけをつくろうとして工夫するがうまくゆかない。暑くて休んでいられなくなり、小屋前の屋根の下に陣を張る。

そこですぐに宴会の開始。あまりにも時間は早く、酒はどんどん進み酔っ払い集団となる。ほぼ半日を費やし、テントに引き上げた。明日は大丈夫だろうか。

穂高の岩登り

8月15日晴れ 涸沢岳～北穂高岳

涸沢05:30～穂高岳山荘07:00～涸沢岳
07:30～北穂高山頂10:30～涸沢12:30

まだ日の出ないうちに滝谷第一尾根に向う3人を見送り、単身、涸沢から穂高岳山荘に向う。きょうも良い天気。登山道には人が溢れている。穂高岳山荘に着くと、きょうの計画変更を知らせるべくケータイの電源を入れるが、すでに佐藤さんがメールをしてくれていた。

この先に涸沢岳から北穂高へ向う登山道は初めて。穂高岳山荘から涸沢岳までは、30分もかからない。ここで写真など撮ってゆっくりする。コースタイム通り歩いても、お昼には着く行程なのだ。

この先は、要所に鎖場の付いている岩場。あまりスピードはあげられない。こちらからでは、鎖場のほとんどが下りになる。最近の風潮なのか、出会う登山者のほとんどはヘルメットをしていた。

時折、行き交う登山者と道を譲ったり、譲られたりしながら北穂高岳山頂へ。一昨日もきたばかり。同じく小屋前で休憩をして下りにかかる。途上、沢では頭に水をかぶり、シャンプーのつもり。

お昼すぎにテントに着く。小屋前に向き、涸沢に来て初めてビールを飲み、ぼんやり過ごす。誰もいないテントに戻って昼寝などして、3人の帰りを待つ。ちょっとだけ雨がばらつく。16時過ぎ、そろそろかと登山道を眺めていたら、沢沿いで休憩している姿が見えた。無事を喜び、本日の話を聞きながら、夕飯。

8月16日晴れ

涸沢～横尾～上高地

長かった滞在も最終日。テントを畳んで、涸沢を後



初めての山頂



縦走路から先日の復習

にする。小屋からほどなくして現れる雪溪に苦勞する。急な本谷橋までの道も下りは早い。横尾でソフトクリームを食べて、上高地に戻ると観光客で一杯。沢渡で入浴して帰路についた。

聞くとところによると2日目に登ったルートは、北条-新村ルートではなかったとか。来年も確認しなければとリーダーは言うが、それはお任せしておきたい。

Primula 92

リハビリの夏に辛うじて登った山々・・・北原 浩平

スキーで痛めた右膝と足親指付根の
関節炎で、本格的な登山が
出来なかった夏。

それでも辛うじて登った山々の記録。

その1 奥多摩：奥多摩駅から五日市駅までトレラン

日程：6月8日(土)

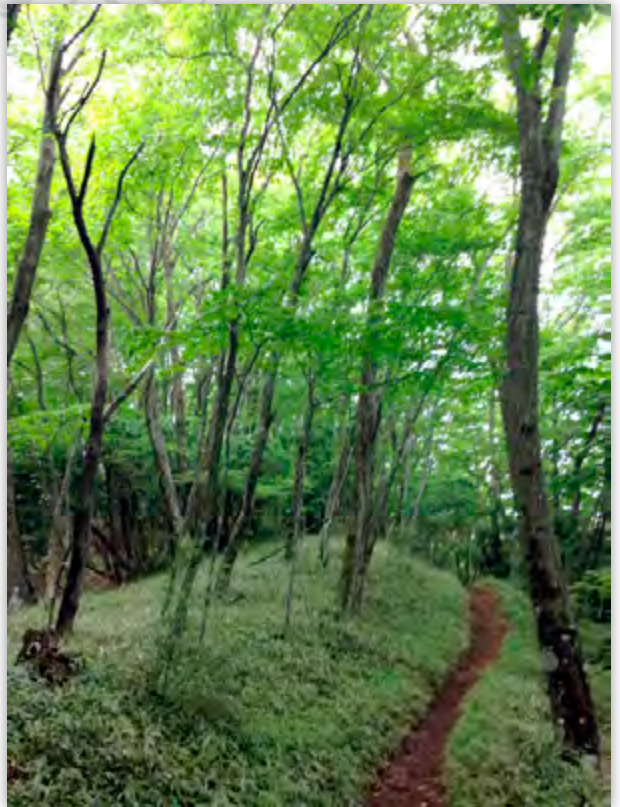
奥多摩駅10:00～11:23 鋸山11:25～12:10 大岳山

12:12～13:35 日の出山13:40～15:30 五日市駅

メンバー：北原

先週の蓮華大沢でスノーシーズンを終え、グリーン
シーズンに突入だが、日曜日が仕事のため日帰りで奥
多摩トレランに行くことにした。このルートはあのハ
セツネの後半部分だけど奥多摩駅から標高差 900m を
登ることになる。愛宕神社の急な階段を登りきると尾
根に取り付く。途中、若者たちの合ハイ？グループを
追越していくが、3つ目のグループを追い越したとこ
ろで名前を呼ばれる。振り返ると先週、一緒に蓮華大
沢を滑った三浦くんたちのグループ。幾分うらやまし
くんもあり、挨拶もそこそこに先を急ぐ。

大岳山への尾根筋は新緑トレイルが美しく、奥多摩



新緑のトレイル



鋸山の天狗様

も捨てたものではないと思う。御岳周辺は人が多く、
トレイルランナーも増えてくる。やはり今回も日の出
山を越えて下りベースになってくると膝が痛みはじめ
る。五日市手前の金毘羅神社からの舗装された下りの
ロードが、今回も一番、膝に厳しかった。

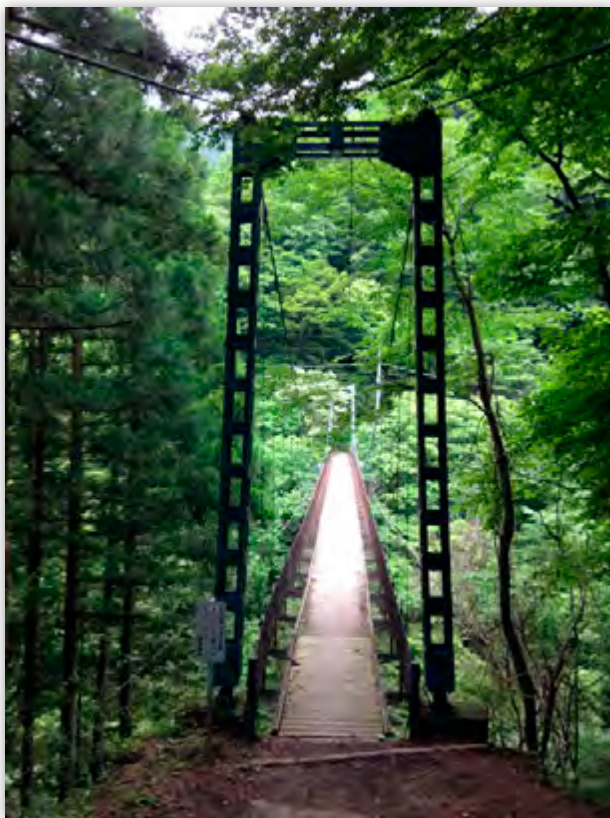
その2 奥多摩：シダクラ沢

日程：6月28日(日)

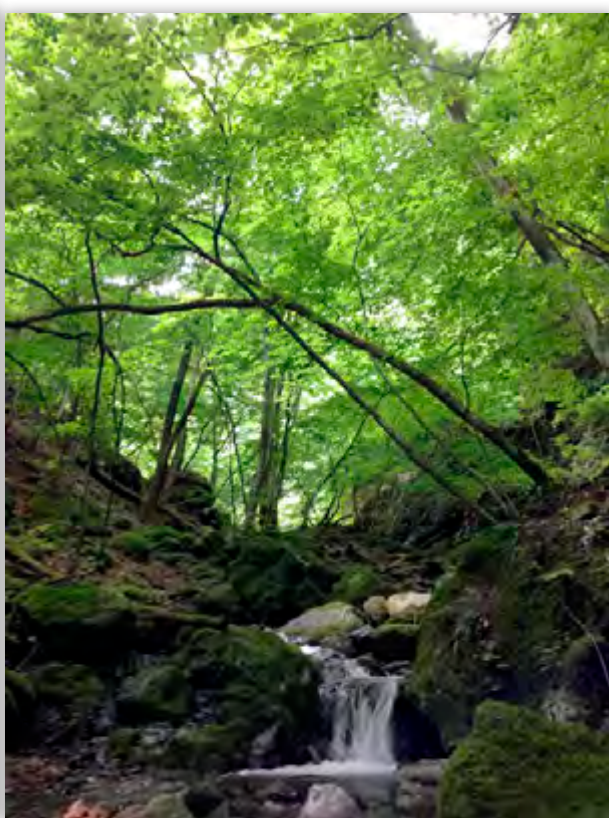
シダクラ沢出合～シダクラ沢～惣岳山～奥多摩湖

メンバー：北原、他1名

今シーズンの沢初めは、三浦くんと奥多摩のシダク
ラ沢へ。奥多摩駅からのバスを途中下車し旧道へ
斜面を下り、出合のつり橋で多摩川を渡る。その



出合のつり橋



新緑のシダクラ沢

先のお稲荷さんから沢に入る。最初のF1が核心という話だったが、よくわからないまま通過、のんびりと沢を辿る。新緑がとても美しい。沢初めにふさわしくのんびりと楽しめるが、ルートを少し外れたのか、詰めでちょっと難儀する。しかし、惣岳山頂から下りになるとやはり膝が痛む。バスで奥多摩駅にもどり、そしていつもの温泉といつもの餃子とビールで乾杯。

その3 インドネシア・バリ島：グヌン・アゲン山

日程：8月6日(火)

D tunjung Resort&Spa(Candi Dasa) 1:00

～ 2:10 Pura Pasarah Agung 2:25～

5:40 South Peak 6:40～ 9:40 Pura Pasarah

Agung 9:45～11:15 D tunjung Resort

メンバー：北原、他1名

新婚旅行で訪れたバリ島へ20うん年ぶりに再訪する。3000m 峰グヌンアゲンがあるので今回、登ってみることにした。これまで、ボルネオ島のキナバル山、ハワイ島のマウナケア、マウイ島のハレアカラ、タンザニアのキリマンジャロに登ってきたが、いずれも現地でアレンジしてきた。今回もその予定である。

Candi Dasa のホテルまでデンバサル空港から料金交渉して白タクに乗る。またアジアの混沌に來たのだと思う。思ったより遠かったので、若干料金を上乗せする。初日4日の夕食はビーチサイドのレストランで夕焼けを眺めながら、この熱帯地方特有のアンニュイな雰囲気うれしい。ウエイトレスさんと話が弾み、彼女にグヌンアゲンに登りたいと話すと、友人のガイドを紹介するという。その晩にホテルの目と鼻の先にある、そのガイドの自宅で打ち合わせをする。

ガイドの名は Jay。6日午前1時にホテル前でピックアップしてもらい、車で登山口のパスアラアゲン寺院へ向かう、深夜なのに沿道にはそこそこ人がいてなにやらやっている。Jayに尋ねると、明日のお祭りの準備だと言う。標高が上がるにつれ天気が悪くなり、小雨と霧が始まる。こんな天気で大丈夫だろうか心配になるが、上は晴れていると言う。途中で祠にお供え物をしながら進む。パスアラアゲン寺院は標高が1500mで肌寒いくらい、コーヒーとサンドイッチの朝食を食べる。ここに登山ガイドのワヤンが現れた。



Candi Dasa



South Peakより



ご来光



ヒンズーの神々

彼は 20 歳そこそこで感じがよくペースも合わせてくれる。ヘッドランを灯し寺院を出発するが、空荷の白人女性二人組が別のガイドとハイペースで先行していく。ガスが晴れ、満天の星空のなか快適に登っていくと、先行パーティーがもう休んでおり先に行かせてもらう。徐々に樹木の背が低くなり岩稜になっていくと、下界の灯と先行パーティーの灯が見える。どうもガイドは皆知り合いらしく、インドネシア語で声を掛け合いながら登っていく。いつの間にかトップ集団の仲間入りし、稜線直下にたどり着く。2 箇所ほどいやらしいトラバースがあったが、ハイペースで登ってきた。

5 時 40 分に South Peak に到着。黄昏時のベストタイミングで、朝焼けとご来光が満喫できた。この日の登山者は 20 余人で、ガイドは皆、ワヤンのファミリーのようだ。ゲストは白人ばかりでアジア人はいない。ワヤンが温かいカップヌードルを作ってくれた。

自分の高度計は 2800m を示しており、火口壁の西側に目視で 200m は高いピークが見えている。火口壁は険しく、富士山のようにお鉢巡りは出来そうになく、一部がクレオパトラヌードルのような岩峰になっている。

6 時 40 分下山を開始する。いつの間にか下界は雲海となり、影アグンを眺めながら下る。結構な急斜面でやはり若干危険なトラバースが 2 箇所ほどでてくる。ワヤンのキュートな妹も別のゲストをガイドしており、みんなでのんびりと下る。9 時 40 分、バサラアグン寺院に到着するがガスの中。ワヤンに 100,000Rp のチップをあげて握手で別れた。good job ! Candi Dasa へ戻る道は熱帯のスコールだった。そして滞在期間中、一度もグヌンアグンを下界から拝むことはできなかった。

※ガイド料(食事・車代込み)2名分:1,200,000Rp
(=12,000yen)

Primula 92

利尻岳登山

・・・山里 守廣

日程：2013年8月21日～24日

山城：北海道・利尻岳

メンバー：山里、ほか1

今回の利尻岳山行計画の切っ掛けは、最近になってにわかに山に傾倒してきたテニス仲間の姫野さんである。彼が「是非、北海道の利尻岳に登ってみたい」と申し出たので今回の利尻山行に至ったのである。

8月21日

羽田を11時に出発すると稚内空港に13時40分に到着した。利尻島方面に行くフェリー出港時間まで少し時間があつたので、空港発の宗谷岬廻り観光を楽しんだ。鵜泊港に着くと15時40分発の杓形行きのバスに乗り込む。乗客は我々以外に2名だった。杓形に着くと、我々が今回お世話になる杓形岬公園キャンプ場は直ぐに見つかった。

ここは本当に快適なテント場であった。既にテントが4張りあつたのでなるべく離れた所にテントを張る事にした。テントを張り終えると後は温泉に入って飲み屋に繰り出すだけだ。二軒目の飲み屋「忘れなぐさ」でビールを飲みながら食事を摂る。ここで地元タクシー会社の電話番号教えて貰う。

8月22日

8時頃、テント場を後にしてホテル利尻の前に着く。そこでタクシーを呼んで杓形登山口へ。登山口は見返台園地の下から入る。取り敢えず三眺山を目指

して黙々と歩く。曇っているせいか汗はさほどかかない。私の後を登る姫野さんは一向に疲れを感じさせないで付いてくる。三眺山までは順調に登れた。三眺山付近はガスが濃く眺望が望めない。小休止して先を急ぐ。しばらくすると「背負い子投げ」と呼ばれる岩場に出る。多少緊張する箇所だ。

後ろから若くて元気な山男が近づいて来たので、先に行って貰う事にした。「親知らず、子知らず」と呼ばれる難所は直ぐに現れた。傾斜が強く浮き石も多い危ない箇所である。私が「ここは慎重にトラバースして下さいねー。」といってトラバースに向かう。

先程の若い山男は難所であるガレ場の端から、何を思ったのか直登し始めていた。人為的な落石が考えられるため、我々は彼が登っている下を通過する時、注意しながら且つ速やかにトラバースして抜けた。

しばらく単調な登りが続くと鵜泊コースと合流した。後はひたすら登るだけだ。途中、またもや、ガレ場に挑戦していたあの若い山男に追いつかれ、そして、先に行く。(どうやら間違ったルートを取ったようである。勢いだけの登山は怖い。) そんなことを考えながら先を行く若い山男を見ていた。

13時15分、利尻岳頂上に立つ。ガスが濃いため、特に頂上に登った感動は無かった。目の前にはあるはずのローソク岩さえ見えない有様である。仕方がないので記念写真だけ撮って早々と下山開始だ。鵜泊

からの下山は意外と長かった。麓にある利尻富士温泉に16時15分に着き、何とか杓形行きの最終バスに間に合ってテント場に戻る。

8月23日

昨夜も「忘れなぐさ」に行って、今、目の前にある利尻ホテルで自転車を借りられる事を知り、今日は雨にもかかわらず自転車（マウンテンバイク）で島一周のサイクリングプランを立てる。

9時にホテル前を出発して時計廻りのコースをとる。姫野さんは途中からサイクリングコースに入り、楽しんだようだ。私はひたすら車道を走る事にした。彼とはサイクリングコースと車道が合流する野塚で会った。野塚辺りで雨脚が強くなり、戻るべきか、そのまま続行すべきか迷った。東屋で雨宿りしながら考えた末、二人の考えは続行することで一致した。その後、もう一度コンビニで雨宿りを強いられる破目になる。

それにしてもよく降る雨だ。雨脚が弱くなると島の南側に向けてペダルを漕ぐ。南側方面はアップダウンが割と多かったが、疲れた、という印象が無かった。

矢張りマウンテンバイクのお陰でしょう。特に坂道の登りでギアチェンジする時は少し感動しました。考えてみれば、私が自転車に乗った経験は運搬用自転車（47前は身近に運搬用しかなかった）か、今はママチャリ、という経験の乏しいものだから余計に本格的な自転車に乗ると感動が強くなるのでしょうか。結局、ホテル利尻に戻ったのは16時30分。

8月24日

札幌（宿泊）経由で翌日、千歳空港から帰宅。

今回のテント場は利便性から考えると、一番素敵な所でしょう。他に北鎌尾根の頂上近くにビバークした事はインパクトとして強く残っている。

Primula 92

栗子山栗子山塊

滑谷沢

・・・初鹿 裕康



こんなトンネル

日程：2013年8月24日～26日

山域：上越・栗子山栗子山塊

メンバー：初鹿、西本

【コースタイム】

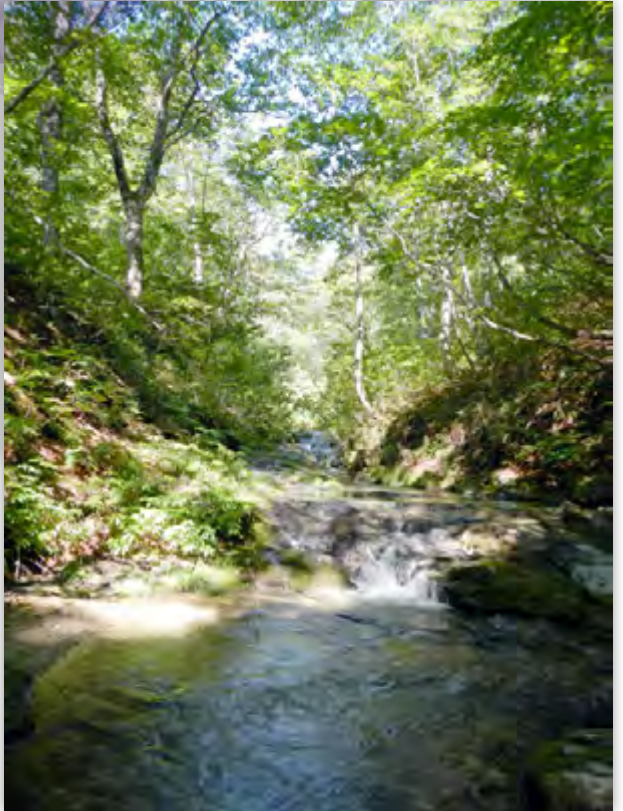
8/24 晴 東栗子トンネル(9:51)---烏川橋(10:44)
---滑谷沢出合(13:31)---二俣B.P(15:22)

8/25 晴一時雨 (6:55)---奥の二俣(8:51)---大谷
地沢出合(9:21)---1010m二俣(10:09)---1085m
二俣(10:24)---栗子山(11:32)(11:51)---コル
(12:54)---裏見の滝(14:31)---B.P(15:32)

8/26 晴 (7:30)---裏見の滝(8:49)---大平橋(10:
10)---烏川橋(10:56)---東栗子トンネル(11:50)

福島飯坂インターから国道13号を進む。どっかい所で寝ようかと考えている間もなく、東栗子トンネルに到着。車中泊なのでこのパーキングで寝ることにする。

今日はゆっくりなので朝寝して目を覚ますと、高速？かなんかのどでかい工事をしていた。旧国道は車が入れなくなっていたので、4WDの釣り屋もこれでは入れない。貸切かなあ。工事現場を横切り（登山道の表記あり）、旧国道へ。と、言ってもかなりしっかりした車じゃないと、走れそうもない。ぼちぼち歩いていくとトンネル。このトンネルを抜けると別世界(?)。反対側は見えているが真ん中あたりは真っ暗、まあ、ヘッデンなしで何とか歩ける。トンネルを抜けてし



別世界でこんな不思議な蟬がいた

ばらく下っていくと、ぼろぼろの烏川橋。ここから入渓。烏川を下っていく。魚影は濃い。途中岩魚が滝登りにチャレンジしていてびっくり。一度は失敗して、岩盤に当たって落ちていった。特に難しいところもなく、綺麗な川をひたすら下っていくと滑谷沢出合。ここから滑谷沢を登る。ほんとと魚は一杯。特に問題になるようなところもなく二俣の素敵なテン場に到着。釣果1匹。

翌日、今日は荷物を背負って登る予定だったが、下降予定地点から戻ってきても30分位でここに戻れる？と考えて予定を変えて荷物を置いて、戻ってくることにする。右俣に入ってしばらく登っていくが、あれだけ釣れなかった岩魚が一杯。テン場の近くにいないのか、私の腕が悪いのか…。基本的に滝も巻き道があったりして簡単に登れる。やばそうな



こんな穏やかな

ところはシュリングを木に掛けて対応する。ナメとぶなの癒し系のいい沢です。上部の二俣のテン場を過ぎると、一気にツメっぽくなってくる。最後の水が空を舞っていて岩魚も登れそうもない5mの滝が魚止めかな？1010mの二俣を左に行き、1080mの二俣、この右股はゆるい滑滝なので、二俣っぽくないが右に入る。しばらく行くと沢形がなくなる。とりあえず高みに向かって藪漕ぎ。途中木登りをしながら、一番高いところを目指す。

登山道がないので山頂をピンポイントで探さなければならぬ。なかなか高度なチャレンジ？もう戻るに帰れないかも……。磁北線の入っていない地図と磁石を駆使しながら進んでいく。途中でドラム缶を発見。頂上は近いと確信する。後は本能でそこだけぽっかり空いた頂上に着いた。やったね。GPS使ったらこの喜びはないでしょう。さて下山。薄い踏み跡がコルに向けて進んでいるのでそれを利用させてもらう。景色が開けてきたあたりで踏み跡は米沢方面に下りていってしまったので、藪を漕いでひたすらコルを目指す。蔓がうっとおしい。なんとなくコルっぽいあたり



岩魚の代わりに那須

から左に下ると、すぐに沢形になる。ここからひたすら沢下り。左からも沢形が入って来たので、コルのもっと手前からでも降りられたかな。途中で天気が怪しくなり、大粒の雨が。でも、ぶな林の中なのでそうは濡れなかったかな。中俣出合あたりからナメっぽくなってきてウオータースライダーを楽しんでみたりすると、裏見の滝に着く。予定ではこの上のテン場に泊まる予定だったが、荷物を置いてきているので、踏み跡をたどって左股を下降する。踏み跡も時々崩れているので、沢に下りたり、踏み跡に戻ったりしながら1時間程でテン場に戻ることが出来た。途中獣の泣き声がしたので何かと思ったらどうやら犬？しかしこちらに向かってくる気配もない。捨てられたのか？今日は薪を確保して、盛大な焚き火と思っていたら3人パーティが登ってきた。今日は日曜日なのであっちもびっくりしたことでしょう。昨日と同じ壺で一匹釣り上げ、宴会。

最終日ゆっくり朝寝をして左股を遡行する。10mの大滝は左を登れそうだったが、昨日降りてきた道を右側に探すが、結構高巻きすぎてしまって、ちょっと痛かった。左股で釣りでもと思ったが水流が少なく、とても岩魚はいそうにもない。裏見の滝をトラロープで高巻いてしまうと、さらに水流は細くなってしまった。しばらく沢を詰めていくと、突然大きな橋に出会い、遡行終了。橋の上から、とても昔車が走っていたとは思えない道を、烏川橋まで戻り、トンネルを抜けて現世へと戻ってきたのでした。

Primula 92

子連れハイク (1歳10ヶ月)

・・・市瀬 江利子

2013年8月31日 / 奈良倉山 (1349m)

子連れハイク No.15

メンバー：初鹿、平、市瀬、他3

コースタイム：松姫峠(12:05)---奈良倉山(13:17-14:32)---松姫峠(15:15)

平ちゃん推薦の奥多摩マテイ山に行く予定が、上野原で高速を降りて、鶴峠を越えて行ったら、新宿から4時間近くかかってしまった為、急きよ、松姫峠を挟んで反対側にある奈良倉山に行くことにした。どちらの山も峠からはほとんどアップダウン無しで行けるので、子連れ向きです。ただし、峠までが遠いのが難点。奈良倉山は秀麗富嶽十二景にも選定されていて、富士山が良く見えるらしいが、この日はあいにくの曇り空で全く見えず。行きは自然林の中の登山道、帰りは並行して走っている林道をのんびり歩いて帰ってきました。マテイ山のほうも、なかなか良さそうです。

今回は、初鹿家から借りたリードに子供をつないで歩き、本人もすごく気に入ったみたいで、得意げに歩いていました。

帰りは小菅の湯にゆっくりつかり、奥多摩のほうから帰りました。この日、下界は猛暑だったらしく、この標高でも少し暑かったほど。これから、少しずつ、涼しくなっていくはずなので、紅葉のハイキングが今から楽しみです（本当は早く縦走とかしたいけど）。



松姫峠の駐車場



こんな感じの登山道



こんな感じの山頂。オートで撮ったらこんなだった。

7/6 チームケンズカップアクアスロン

in 西武園ゆうえんち大会

子供が出たいというので(?) 申し込んだが、今年はプールはまだオープンしていないし、パーティもないし、いまいちな感じの大会になっていた(いつもは大会の後、プールで泳げるんだけどね)。子供のレースを見てから、いよいよ自分のレース。子供はレース後井出樹里に靴にサインをしてもらっていた。SWIMは流れの止まった流れるプールを2周。意外とバトルがあるが足が着くので、結構立ったりして先を確かめられる。トランジットで靴を履くが、足が濡れているので、靴の中で中敷が折れてしまったまま履いてしまった。距離も短いのでそのまま行く。さらに、レースで指定されたナンバー付のシャツを着るのだが、シャツが背中に引っかかって、なかなかうまく着れない。ずいぶん、

もたもたしてしまう。距離は短いから結構飛ばすがなかなかしんどい、ペースが落ちるのが如実にわかる。「たらこ先輩がんばって」と応援されている若い女の子に抜かれてしまった。たらこ唇なのか? 抜かれたのでわからない。後で調べたら、たかこ先輩だった。←だから?

参加 59名

SWIM (0.7km) 14:15 31位

RUN (3.4km) 16:15 22位

総合(4.1km) 30:30 26位

短い距離はしんどいなあ。

7/28 第20回奥武蔵ウルトラマラソン

考えてみれば参加資格からして「3年以内に70km以上のウルトラマラソンレースを完走した経験があり、かつ起伏の激しいコースと暑さに対するトレーニングを充分積んでいる20歳以上の男女」って言うのだから、

第20回 奥武蔵ウルトラマラソン78km

開催日 2013年7月28日(日) 雨天決行
種目 ウルトラマラソン 78km
参加資格 男女別20〜39歳、40歳代、50歳代、60歳以上の部
3年以内に70km以上のウルトラマラソンレースを完走した経験があり、かつ起伏の激しいコースと暑さに対するトレーニングを充分積んでいる20歳以上の男女
会場 毛呂山総合公園(埼玉県入間郡毛呂山町大谷木443)
■更衣室・荷物置場に毛呂山総合公園体育館をご利用いただけます。ただし、主催者による荷物管理は行いませんので、その旨ご了承ください。なお、貴重品のみ大会本部でお預かりします。
■レース後は体育館内のシャワー室をご利用いただけます。
■ペンパッド・ドリンク・高エネルギーゼリー(各30g、復路59.7km)に置くことができます。利用される方は、大会本部に6時40分までにお預けください。なお、レース後に未使用のもの、容器等は返却されないことをご了承ください。

受付 ナンバーカード、プログラム等は事前(7月中旬頃)発送しますので、大会当日の受付はありません。発送はクロネコメール便にて行います。参加申込後に転居等住所変更された際は、必ず新住所を事務局までご連絡ください。

開会式 6:20〜
スタート 7:00
エイドステーション 26カ所(約3km間隔) 量、質ともに豊富です
エントランス 6カ所 右の関門閉鎖時刻を参照ください
ゴール閉鎖 19:00(制限時間:12時間)

表彰 ●男子各部1〜6位、女子各部1〜3位 ●飛び賞
●男子団体1〜3位(同クラブ/チーム男子上位5名の合計タイム順)
●女子団体1〜3位(同クラブ/チーム女子上位4名の合計タイム順)
●カモシガ(最も遅かった男子ランナー) ●カモシガ(最も遅かった女子ランナー)
●20回完走賞 ●10回完走賞、その他

参加賞 Tシャツ(イラストレーターやなざむいんちデザイン) ※参加賞「あり」、「なし」を選択してください。
完走証・記録集 完走証は当日発行。参加者全員の記録集は希望者(有料(200円))で後日送付(当日、係にお申込みください)。

募集人数 1,500名
参加料 9,800円(参加賞あり)
9,300円(参加賞なし) ※どちらかを選択してください
申込方法 ①インターネット スポーツエイド・ジャパン <http://sportsaid-japan.maxs.jp/ran-net>
②専用申込書による申込み
参加申込書に必要事項を記入の上、大会事務局まで郵送かFAX(049-294-5603)にてお送りください。参加料は郵便局に常置してある郵便振替用紙(払込取扱票)にて口座振込にしてください。申込書と参加料の受領をもって正式エントリーとなります。
(郵便振替口座)口座番号番号 00100-3-666815 加入者名 スポーツエイド・ジャパン
4月19日(金)必着。先着にて定額になり次第、締切ります(スポーツエイド・ジャパンのサイトでお知らせ)。なお、締切後に申込み(参加料を返金)された方には手数料(書留料金等)を差し引いた金額を返金します。
奥武蔵ウルトラマラソン事務局
〒350-0455 埼玉県入間郡毛呂山町阿瀬崎1221 NPO法人スポーツエイド・ジャパン内
電話/FAX 049-294-5603 携帯 080-5085-5603
E-mail sportsaid-japan@maxs.jp URL <http://sportsaid-japan.maxs.jp/>

※3月1日よりメール、ホームページアドレス(URL)が変わります。Email info@sportsaid-japan.org URL <http://sportsaid-japan.org/>

関門閉鎖時刻
47.6km/14:25 大野AS(往路)
49.2km/14:40 丸山AS
50.8km/15:05 大野AS(復路)
59.7km/16:00 丸山AS
70.6km/17:50 ユガテAS
73.3km/18:25 清流AS
78.1km/19:00 ゴール

AID STATION
全長78kmのコース上に3km前後の間隔で合計26カ所エイドステーション(AS)を設置しています。

高低図
START 0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 78 km

会場アクセス
○開通自動車道・鶴ヶ島より20分(無料駐車場あり)
○JR八高線・毛呂山より約2km(シャトルバスあり)
○東武越生線・東毛呂山より約3km(シャトルバスあり)

大会ボランティアスタッフ募集

※経費、参加賞Tシャツ、交通費(当法人規定)を支払いいたします

1 個人
会場係、コース誘導係、給水係など

2 チーム
1つのオフィシャルエイドステーションを受け持ってください。
ランナーのオアシスであるエイドステーションをチームで盛り上げてください。
■食料、用具等は主催者が用意いたします。
■エイドステーションではメンバー12名以上で活動できること、またスタッフ会議(7月中旬)に代表者が参加していただくことが条件になります。
■担当していただくエイドステーションは場所、活動時間等、主催者の指示にしたがっていただきます。
■多数応募があった場合は、ご希望に叶えない場合がありますのでご了承ください。



参加者のレベルが高いんだって、今気づいた（参加者全員ウルトラランナーじゃん）。日帰りで行けると思いきや、自宅からだ微妙に間に合わないの、前日川越の健康ランドに泊まる。川越は夏祭りの真っ最中、でも禁酒です。260 円追加すれば静かな部屋に泊まれるので良かった。

さて当日。東毛呂駅から送迎バスで集合場所の毛呂山総合公園へ。ナンバーカードもチップも事前に送られてきているので、当日の受付は無し。これは気楽で良いです。トイレに並ぶが長蛇の列。あきらめてスタート地点へ。レースウエアはもう 30 年近く使っているランパン。ゴムが緩んでいるので紐でばっちり結びます。まずは鎌北湖付近を 1 周（25km 位か）。早速アップダウンが激しい。何も考えず走っていく。最初の 5km27 分は上出来か？登りもできる限り走っていくが飛ばし過ぎかも。覆面かぶった上半身裸の仮装プロレスラーに抜かれる。ランパンが走っているうちに（お腹がへこんだのか）、下がってきている感じ。下半身裸になったら失格だろうと余計なことを考えながら走る。鎌北湖に戻ってきた時には結構へばっていた。両脚痺りそうだし、暑いし、キロ 7 分にまで落ちていたが登りもあったから仕方がないか・・・。

((+_+))。奥武蔵グリーンラインに入る。25km 標識から次の 30km 標識までが遠い。周りの人にも聞かれたが、みんな気づかず、どうやら通り過ぎてしまったようだ。暑い。しかし、エイドはすごく豊富なので、その点は困らない。頭から水をかけてもらったりしながら、ひたすら前に進む。35km の標識で 1km8 分にラップが落ちていたのに愕然とする。エイドでそばやおかゆ（最初とろろ芋に見えた）を補給（飲んで！）して、さらに激しい上り下りは続く。「山ちゃんなら、この辺でリタイアするよな」とか、チーム戦「山ちゃん」リタイアの山岳耐久レース以来「山ちゃん」がよく頭をよぎる。まあ、反面教師です（*^_^*）。よく周りをみると、周りの選手はみんなどっかのランニングクラブのユニフォームを着ている。しかもしっかりとした筋肉。やばいレースに出てしまったもんだ。高山の

エイドではノンアルコールビール有。うまかった、

しかし、ここからが「おくむ」の本番だった

レース中に飲むノンアルコールビールがあんなに旨いとは。でもノンカロリー。基本はコーラで補給するが、ガスが抜いてないのでゲップが出るまでが辛い走りになっちゃう。なんとか丸山の折り返し (49.2Km)。我ながらよくここまで来られたもんだ。ビキニのおねーちゃんに水をかけてもらい (山ちゃん出る??) かき氷 (イチゴにしました) を食べて再出発。ここから下りにかかる。折り返してからしばらくは、陽も翳って調子が良かったが、それも束の間。登りは歩き、下りも大腿四頭筋が痛くスピードが出せない、さらに腹筋も痛い。ウルトラらしくすれ違いざまに皆な「ナイスラン」の声がかかる。しかし下りでバンバン抜かされる。仮装のセーラー服のおねーちゃんや浮き輪を持ったオネーちゃんにも。そっか、おいら、もしかして山の中で溺れてるのか…。どうしても走り方が、下りはスピードを緩めてしまう傾向にあり、負荷がかかったようだ。途中のエイドでスイカやらお汁粉やらホットバ



ナナ!! (ただ陽にあたって熱くなっただけ) で補給するが、速さはさして変わらず。落ちるように走っていけない。マッサージのエイドもあったけど、5分マッサージ受ければ、速く走れるようになるのか? とりあえずスプレーだけして走る。残り 7km のエイドで前祝い。「本物のビールもあるよ」と言われたが、ノンアルコールで「完走おめでとう」の乾杯をエイドのボランティアとする。でもまだ 7km もあるのだった。1キロ 8 分で走っても 10 時間は切れるが、とにかく早く終われー (^_^) ゴール手前 2km で 50 人には抜かれたなあ。弱々でした。去年途中リタイアした八ヶ岳 100 マイルの 100km までの方がはるかに楽だった。

ゴール後大学生のおねーちゃんにマッサージしてもらう (山ちゃん出る??)。しかし家にたどり着くまでがボロボロだった。

ゴール後、「ねっ、”おくむ”は甘くないでしょ」ってどっかの誰かがしゃべっていた言葉が妙に心に響いた大会でした。

ラップ

5km	27'50"	
10km	25'28"	53'19"
15km	30'57"	1:24'16"
20km	26'37"	1:50'53"
25km	36'23"	2:27'16"
30km	標識わからず	
35km	1:17'48"	3:45'05"
40km	44'10"	4:29'15"
45km	41'48"	5:11'04"
50km	40'47"	5:51'51"
55km	35'24"	6:27'16"
60km	39'23"	7:06'39"
65km	40'55"	7:47'35"
70km	43'18"	8:30'54"
75km	43'34"	9:14'28"
78km	23'12"	9:37'40"

50歳代 136位/完走 327人 出走 351人
総合 609位/完走 1307人 出走 1419人

まあ、出るからにはもっと速く走れないとなあ。下り何とかしないといけません。他の人のブログと

か見ると皆結構リタイアしたり、ぎりぎりゴールしたりで、感激しているのですが、私自身は自分の弱さに打ちのめされた大会でした。400 人位に抜かされるってのはかなり落ち込みます。でも、ウルトラランナーは皆結構優しい。トレイルランナーやトライアスリートは偉そうで嫌いなんですけど、ウルトラは同じ苦しいことをしていると言う仲間意識が強いのかなと思いました。

9/8 2013 トライアスロン伊良湖大会

昔からあるショートとミドルの大会でなかなか人気の大会。まだ、一度も行ったことがなかったので、ミドルに申し込んでみたら当たってしまった（約 2 倍の倍率だったそう）。伊良湖って湖だとずーっと思っていたら、海だった（^^）。

取った宿が山の上のホテルだったので、景色はとってもいいが前日受付の BIKE チェックまでは BIKE を 10km ほど漕いで出かけねばならぬ。案外あっさりと BIKE チェック終了。最近はあるまい BIKE チェックなどない大会が多いので久しぶりだった。他所のホテルで開会式とカーボパーティ。メロンをしこたま食べて、帰りはホテルの送迎バスに迎えに来てもらって翌日に備える。潮の関係でミドルタイプは朝 9 時スタート、ゆっくり出来る。天気予報はいまいちぼいが明日はどうなるか？波も荒そうな気配。

翌日、まずは BIKE ラックに BIKE をセッティング。砂浜なのでやりにくい。みんな砂だらけになりそう。最近ウエットスーツを着るのは苦にならなかったが、ワンピースのトライウェアを着るのが苦痛。腹出ているのできついし。トイレに行くのに上から脱がないとまらないし超面倒。まあ、そんなこんなで SWIM スタートへ向かう。「潮流がきついので初心者の方は気をつけて」と注意が入る。天気はまだ持っている、たまに日差しも。砂浜から走ってスタート。海に飛び込んで泳ぎますが、人数が多いからなのかバトルがすご

い。まあ、500 人一遍だからなあ、後ろから乗られたら溺れてしまうよ。まずは最初のブイ。まあ、順調かな？しかしここを過ぎてから、次のブイまでがいつまでたってもたどり着かない。でかいブイさえも見えない。相変わらずバトルがすごい。やっとターンのアドバールンみたいなブイが見えてからもなかなか近づいて来ない。なんとか到着しバールンで折り返そうと思うが、波が強くてバールンに押されつけられてしまう。息出来ん。やっとのことで折り返したら、すっかり人がバラけてしまったのか、周りに人がいなくなってしまった。コース間違ってるか？波もかなり高く、ヘッドアップしても人が見えない。息継ぎすると後ろから思いっきり波が後頭部を叩く。何度か軌道修正しながら次の折り返し。最初の折り返しと同じ方向に泳ぐようになると、またまた、なかなか進まない。今どのくらいの位置で泳いでいるのだろう。最後の方の気がしてくる。2km40 分目標だったが、間違いなくかなり遅れている、しかし、周りの選手のスピードとさして変わっていないかも。やっと、もう一度折り返して海岸へと向かう。しかし疲れた。最後やっと足が着くところになって周りの選手が時計を見ながら、「1 時間 15 分もかかっちゃった」と言っている。ガーン。予定の倍じゃん。他の大会でも 2km45 分で泳いでいるのに。BIKE ラックまで走って行く元気もない位疲れた。他の選手の BIKE はもうラックに半分以上ない気がする。やばいねやっぱ。急いでウエットスーツを脱いで、砂浜に座って靴下を履いて砂浜を BIKE を押しながら走って乗車位置からスタート。最初は息も絶え絶えって感じ。SWIM の疲れが激しい。何とか周回道路に入って 5 周回する。路面はあまりよくはないが、テクニカルなコーナーはないので、まあ走りやすい。地元の高校生が要所所でボランティアをして、応援してくれている。時折雨が降ったりするが、あまり気にはならない。平均時速 30.5Km で BIKE ゴールにたどり着く。これはほぼ予定通り。BIKE の戻ってきている数はあまり変わらないか。そして最後の RUN。最初は砂浜の上に

マットが敷いてあるところを走る。これが結構きつい。そこからサイクリング道路に入るのだが、自転車で登れるのかという位のきつい登り。早速歩いている選手もいる。自分は多分かなり後ろの方にいるので、目標は 100 人抜きと言いたいところだが流石に無理か。

50 人抜きを目標に数えながら走る。最初はなかなか追いつかず 5 人抜いたら 1 人に抜かれ、とかの感じでなかなか数は増えていかず、何箇所かのきつい上り下りを走る。エイドは随所にある。坂道を下って海岸沿いに出ると B タイプの折り返し。もしかしてもう 5km かな？ここからはフラットなコースになる感じ。6km の表示でタイムを見ると 34 分 18 秒 1km6 分ペースか。まあ、上り下りが激しいのと前回のレースのリザルトで多分 2 時間くらいかかると踏んでたので、まあ予定通りかな。残りは大体 1km ごとに表示があるのだが、適当なのか微妙に上り下りになっているのか早ければ 4 分 3 秒遅ければ 6 分 17 秒とまったく当てにならない距離表示だった。時折雨が舞ったり日差しが出たりする変な天気だ。

何とか、A タイプの折り返し、残り 10km。やはり後半になるにつれて、だんだんと抜く数が増えてくる。途中ヒザが痛い気がしたら、ちょうどエイドにスプレーが置いてあったので、両膝に噴射。その後も速い人に

は抜かれるが、その数もだんだん少なくなってきた。最後の登りを終えて後は下り。結局ゴールまでに 54 人位抜いてゴール。5 時間 12 分位の時間表示でゴール出来た。SWIM で 40 分くらい余計にかかったけど、何とか目標の 5 時間に近づけてよかった。シャワーを浴びて、菓子パンとおにぎりをもらい、メロンを好きなだけ食べて、アサリ汁を飲んで帰路に着いた。

参加者 A タイプ 456 名 完走 408 名
SWIM (2.0km) 1:17:37 269 位
BIKE (62.7km) 2:04:26 179 位 3:22:03 222 位
RUN (20km) 1:49:00 104 位
総合 (84.7km) 5:11:03 153 位
50 代男子 20 位 / 77 人

思ったより順位が上でびっくり。3 分の 1 近くに入っていました。こうなってみると、最初の SWIM の遭難(^_^)が痛いね。朝は大雨警報が出ていたらしい。よく SWIM 中止にならなかったなあ。

JTU エイジランキングで前回大会の長良川 (ミドル) 年代別 4 位で 6 点点数がついていてびっくり。残念ながら伊良湖はポイント対象のレースには入っていなかったで、年間でポイントもそれ以上伸びず、特に何ももらえなかった(^_*)。来年は大会選んで狙ってみようかな？(*^_^*)

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 6月末から9月末までいってしまえ! —

92

水野 奈保美



伏せ字は基本敬称略で。

6月

第5週

6/29 (土) 金曜夜出→馬場島 with OYM

6/30 (日) →廻り目平

レイバック、クレイジージャム。チョックスストーンタマよご一家がいて、ロープを登らせてもらったが、出だしびちょびよで、出だしのレイバックで敗退。

7月

第1週

7/7 (日) 天王岩 witn お師匠

クラックジョイ、始祖鳥→お師匠に張ってもらって、途中のムーブを思い出したよ。トップアウトはできなかった。

第2週

7/13・14 (土・日) with OYM カブちゃんうっちさん

土曜日：現人神を見に行く

天気が悪かったので、近場のエリアを見に行った。現人神は素晴らしい屋根なクラックだったよ、降ってきたので早々に降りて、明るいうちから酒をのむ

日曜日：末端

末端壁に行ったのだが、さすがに明るいうちから飲んだせいで、全員へろへろ。Yおねーたまチーム

がトワイライトにはったロープを使わせてくれたので、練習しました。

第3週

7/20 (土) 障子岩 with お師匠&いーづか (久々!)

10aでアップして(私はTR)、11aを登って(私以外)お二人の懸案ホールインワンへ。いーづか君がヌンがけして、お師匠が登って、なんか解決して、私が触って敗退して、いーづか君が登って、RPして、お師匠が登って、なんか解決して、私が登って敗退して、いーづか君が隣のルートやってみて、お師匠がなんか解決して、いーづか君が隣のルートRPして、お師匠がなんか解決して回収したんじゃないかと。石灰岩もオモシロイにゃー。

7/22 (月) なんちゃってトレラン高尾

今日はお仕事サボってお師匠と、から揚げとビール持ってまた高尾なんちゃってトレラン行ってきましたよ。そういう夏休み。相変わらずいろんな人がいました。帰りに100円寿司屋でなんちゃって鰻丼を食べました。

7/24 (水) あさ高尾代替多摩御陵ラジオ体操 (しょぼ)

多摩御陵 近くの陵南公園までチャリで行き、ラジオ体操(夏休みバージョン)してきた。いまはこんなところが精一杯じゃー泣。

7/27-28 (土日) 小川&末端壁 with OYM

土曜日：妹岩

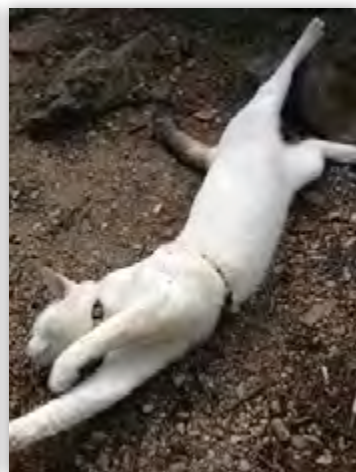
いったん植樹祭Pに行くが、用意をしていると末端

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 6月末から9月末までいってしまえ! —

92

水野 奈保美



壁に雲が降りてきたので、小川へ。ひさしぶりに妹岩。カサブランカTR→ジャック豆TR→カサブランカ。TRだけジャック豆も快適に登れたので、改めてリードしてみた○GJ。

日曜日：末端

もうきだらで泊まるつもりが塩川に泊まったので、まつたん壁に行く。久々に調和をリードしたよ。T&TをTR。ようやく(いつまでやってんだ)今シーズンにはT&Tとアストロは登れそうな気がする。まあまあ順調。

8月

第1週

8/3-4 廻り目 with めずらしいメンバーズ(佐藤号、ODA、USI、TMR：敬称略)

土曜日：ソラマメスラブ→親指岩

ソラマメのスラブ2本。それ以上は混んでいたのレイバックでも行くか、ってことで移動。レイバックにロープ張って、みんなで登る。

日曜日：スラブ状岩壁と、父岩に分かれる

スラブ状岩壁へ。佐藤さん懸案の水曜日のシンデレラへ。機会がなくて見たこともなかったけど、想像よりずっときれいな壁だった。佐藤さん途中で長ヌンしたりしながら、マスターで取り付く。ほぼ各駅していたけど、トップアウト。そのヌンをお借りしてトライする。一撃してる人も多いから、あわよくば?と思って慎重に行ってみたんだけど、やっぱりヘマをしてへん

な格好でスローパー状を持った手が滑り出して落ちた。でっかいフレックを掴んでるのに乗っこせず「うぎゃーのぼれにゃい〜!」などと騒ぎつつ、なんとかトップアウト。でも2回目で登れたよ。評判通りすんごく面白いルートだったよ。行く機会があったらまた登りたいな。佐藤さんも次は登れるでしょう。

セクションに行っていたドロミテ帰りの西本桜井隊が上がってきたので、トップロープで回収してもらい、左岸スラブに寄って帰る。

第2週

8/11 ひきつづき珍しいメンバー(西本号、桜井、ODA)

女子会のつもりだったのだが、ひとり奴隷的に桜井さんも参加。

土曜日夜：南きよさと道の駅泊

日曜日：レイバック→カサブランカ

お盆だからめったにいかない遠い火星でも行ってみようって話をしていたのだが、行ってみたらあんが普通だったのでダメ元でレイバックへ。一組がすぐ上に行ってしまったのでしばらくは貸切り。ひととおりに登って、もう1回登ろうか、と思っていたら人がきたので、じゃあ隣のスラブでも、と登ってハマりがちな5月の雪だが、やはりハマってしまった。久しぶり登ってみたいけどムズかったー(ダメでしょ)桜井さんにトップアウトしてもらいました。朝早く登りはじめたので、まだ時間が早い。ダメ元でカサブランカへ行ったら、3

Page

46

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 6月末から9月末までいってしまえ! —

92

水野 奈保美



人待ちくらいで登れた。しかし、暑かった～。

おそい夏休みだよ～ 8月最終週

8/24～9/1まで休みをとったよ！お陰で8/12から23日まで休みなしだったけどね！まーいろいろと面白かった。ちよびさんも楽しそうだったしね。

8/24 (土) 部屋を片付けて、キャンプの支度して、夕方居酒屋半額2時間コース後カサゴの人とアルプスで合流して買い物して帰宅。

8/25 (日) 荷物満載で5時出、20号で。甲府盆地だけ中央に乗り、時間稼ぎに境川で朝ごはん。ちょっと雨。ナナエズで普通に雨。廻り目に土曜から入っていたプリムラメンバーから廻り目は土砂降りとのメール。買い物しようとしたら下りて来る。ちょっと立ち話をして別れる。テント建てて、10時くらい。雨なので、だらだら過ごす。

8/26 (月) いーづか、こーちゃん来る みんなでマラ岩

いーづか・お師匠:ホリデー スキゾなど
こーちゃん・TKGS・TKZW:ブルースパ
ワー ノーモア シルクロードなど
水野・カサゴ:川上小唄 卒業試験 レギュラー

夜は、カランパご夫婦とキノコ先生TKZWもいらっして宴会になるが、土砂降りとなりぐちゃぐちゃ状態に^^濡れてめんどうなのでテント入ったら寝てしまった。

- ・川上小唄 ○
- ・卒業試験 ○
- ・レギュラー×2 登れなかった

8/27 (火)

いーづか:二
日酔い お師
匠:レスト
こーちゃん・TKGS・TKZW:いったん甲府
幕まで行ったが戻って来る→マラ岩
水野・カサゴ:姉岩

朝まで雨降ってたので、かさごちゃんの持ってきてくれた無印タコスキットを(粉から)作って食べてみる。午後からぼちぼち、登りにいく。カサブランカでお茶を濁すつもりだったが、下が濡れていたの、姉岩へ。姉岩はロケーションも良く良い。夕食後5人でちょい飲み。こーちゃんのゲイ&おかまバー話がすごく面白かった。

- ・大きな松の木の下で×2
- ・ハラペーニョスーパーホット×2

8/28 (水)

いーづか・お師匠:
メルトダウンドイレクト、はたらけ、セクション
こーちゃん・TKGS・TKZW:マラ岩
水野・カサゴ:姉岩

姉岩の続き。あまりの暑さに二人でブラトップ姿で涼んでいたら、誰か上がって来たので慌ててTシャツを着ていると、現れたのはO平氏だったよ！9月からヨセミテだそう。私たちは懸案が終わったので気を良くしてレギュラーも登ってみたが、ダメでした。

- ・大きな松の木の下で○
- ・10a○
- ・ハラペーニョスーパーホット○

Page

47

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 6月末から9月末までいってしまえ! —

92

水野 奈保美



・レギュラー×1

8/29 (木) リバーサイド→マラ岩

いーづか:

石ころりん&フライばさばさでちょびさんに嫌われる。

お師匠:レスト

TKZW・水野・カサゴ:リバーサイド→マラ岩

お師匠に棒をかりて3本目までなんとか行ってみたがすっかり疲れてしまったので、TK澤さんに甘えて全部登ってもらい、ロープかけてもらったので、カサゴさんも登って見ていたよ。その後マラ岩へ行き、カサゴさんはレギュラーRP(ヨかったね!)戻ってもう1便リードしてみたけど、上が解決しないまま力つきた。難しいな—と思ったけど、そのうち登れるんジャマイカなあ。

・BUNBUN×3

8/30 (金) リバーサイド

TKZW・カサゴ朝帰る

水野・お師匠でリバーサイド

指が痛いよ。お師匠はいったんRPしたものの、納得行かなかったらしく最後にもう一度登りに行ったが、最後でしくてプ~~~~んと落ちましたよ。こええルートですね。でも、上のスラブをじっくり考えてきたから(覚えていれば)あと何回か登れば登れると思うよ。2便めは、3本目で力尽きて嫌になって下りてきてしまった。便数ばかり増えるのはこのせいだ!

・BUNBUN×2

8/31 (土) 帰宅

なんかGDGDする。双眼鏡を持ってキャンプ場を散歩して山荘で優雅なランチをしたうえ、ゆっくり片付けふじもとにも寄って、帰宅したよ!すごく、満足だ。登りに関しては相変わらず進歩ねえですがね。

9月

第2週

9/14 ODA とお師匠と天王岩

ODAをすっかり放置プレイして、好きなのを登ってました。8月をやってみたけど、キョンがきつい身体が硬い。

9/15・16 台風一過

第3週

9/21~23 お彼岸3連休ねことお師匠と廻り目平

1日目:ねこと散歩

2日目:リバーサイド・BUNBUN×3

アップがてらでヌンチャクがけるが、上がとにかく怖くてムーブするどころじゃね?×1。お師匠にお助け紐を掛けてもらう。お助けを使って、最後の確認。×1

テントに戻って猫にごはんをあげて、休んでから再トライ。下ができない〜もう力つきて×1。さっさと終わらせて、カブちゃんたちとゴーレムに行きたかったな〜

2日目:リバーサイド・BUNBUN×3

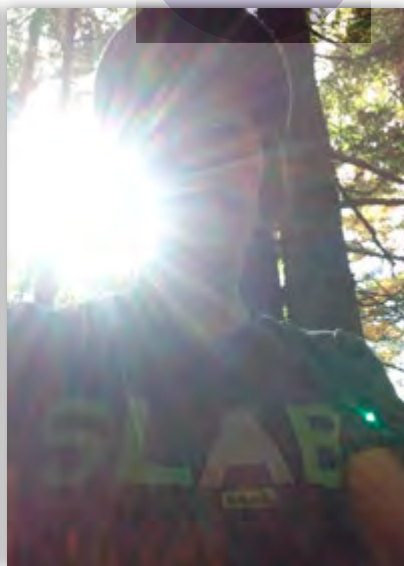
ちがうお客さんがいて、すでにぬん生え

なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記。

— 6月末から9月末までいってしまえ! —

92

水野 奈保美



がたいのいいお姉さんが、下の部分を今までにない形で登っていたのを真似してみても、これはいい、ということになるが、力が残っていなかったのもう帰ることにした。下で優しいのを登ってみたら、すこし元気になったので、すでに回収されていたぬんを3本ほどかけて、あたらしい形を練習してみる。フレッシュならなんとかなりそうな気配を残して、お師匠に怪しい回収をしてもらって、連休は終了。

第3週

9/28・29 カブちゃんと廻り目、ピロシさん急きょひとりレンタカーで金曜の夜は塩川泊まり。

1日目：リバーサイド・BUNBUN × 3 RP → 妹岩

3回目でやっっ〜っつとRP(便数かかりすぎだろ〜まあしかたない)妹岩に行くが混んでいたのも、車にもどって明るいうちから酒を飲む。2人とも朝(夜?)早

かったので8時には寝てしまった。

2日目 親指岩→弟岩→兄岩

- ・レイバック
- ・ジョイフルジャム
- ・マガジン
- ・八王子ルート2P目

久々に充実の2日間でしたよ。ブンブンやっとならRPできたし(ついでに隣の2本も登れる力があっておかしくない芸歴だが)やさしいクラック初見登りは、とっても癒され増田。ようやくトッローパーを卒業して、完全復帰ってとこですかねー。10数年ぶりの自力ドライブもよかった。知る人ぞ知るジムニー時代が懐かしい。

山行一覧(1) 2013年6月1日～7月21日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3346	6/1～2	北ア	劔岳・馬場島	水野・他1	搜索
3347	6月8日	奥多摩	越沢バットレス	小堀・小田	岩トレ
3348	6月8日	奥秩父	瑞牆山	水野・他	フリー
3349	6月8日	奥多摩	鋸山～御岳～五日市	北原	トレラン
3350	6月16日	道志	高尾山	初鹿・他1	ハイク
3351	6月22日	奥多摩	越沢バットレス	小堀・佐藤・小田	岩トレ
3352	6月23日	八ヶ岳	赤岳～横岳～硫黄岳	平・他1	ハイク
3353	6月23日	奥秩父	大菩薩・真木川赤岩沢	小堀・初鹿・他1	沢
3354	6月23日	甲信	小川山	水野・他1	フリー
3355	6月23日	奥武蔵	日和田山	佐藤・小田	岩トレ
3356	6月23日	上越	会津駒止湿原	岡	写真撮影
3357	6月23日	甲信	小川山	水野・他1	フリー
3358	6月24日	東北	那須・茶臼岳	岡	写真撮影
3359	6月29日	北ア	劔岳・馬場島白萩川周辺	水野・他1	搜索
3360	6月29日	奥多摩	シダクラ沢	北原・他1	沢
3361	6月29日	奥多摩	天王岩	佐藤・小田	岩トレ
3362	6/29～30	甲信	小川山	平・他3	フリー
3363	6月30日	八ヶ岳	権現岳	岡・他1	ハイク
3364	6月30日	中央線	鷹取山	初鹿・他1	ハイク
3365	6月30日	甲信	小川山	水野・他1	フリー
3366	6月30日	奥多摩	越沢バットレス	西本・桜井	岩トレ
3367	6月30日	奥武蔵	日和田山	小堀・佐藤・小田	岩トレ
3368	7/5～16	ヨーロッパ	イタリア・ドロミテ	西本・桜井	バリ
3369	7月6日	上越	谷川岳・一ノ倉沢	岡	写真撮影
3370	7月7日	日光	小田代	岡	写真撮影
3371	7/6～7	丹沢	西丹・水ノ木沢手前～菰釣山	平・他1	沢
3372	7月7日	奥多摩	天王岩	水野・佐藤・小田・他1	フリー
3373	7/10～12	八ヶ岳	硫黄岳～横岳・西岳	岡	写真撮影
3374	7/13～14	奥秩父	瑞牆山	水野・他多	フリー
3375	7月14日	丹沢	水無川本谷	平・他1	沢
3376	7月15日	奥秩父	笹子川・大鹿川平ッ沢	初鹿・山里・市瀬・平	沢
3377	7月20日	奥多摩	障子岩	水野・他2	フリー
3378	7月20日	奥多摩	天王岩	平・他1	フリー
3379	7/20～21	奥多摩	今熊山	初鹿・他2	ハイク

山行一覧(2) 2013年7月22日～9月7日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3380	7月22日	道志	高尾山	水野	トレラン
3381	7/23～8/21	ヨーロッパ	アルプス	岡・他1	写真撮影
3382	7月27日	甲信	小川山	水野・他1	フリー
3383	7月27日	甲信	三つ峠	平・他1	岩トレ
3384	7/27～28	甲信	小川山	佐藤・他5	フリー
3385	7月28日	奥秩父	瑞牆山	水野・他1	フリー
3386	7月28日	甲信	小川山	平・他1	フリー
3387	7月28日	奥武蔵	奥武蔵ウルトラマラソン 78Km	初鹿	マラソン
3388	7/30～8/13	カナダ	カナディアンロッキー (8/2 アサバスカ・8/6 レイクルーズ(岩ゲレンデ)・8/8 アシニボイン)	小堀・他1	クライミング
3389	8/3～4	東北	安達太良山・石筵沢	初鹿・山里・平・他1	沢
3390	8/3～4	甲信	小川山	水野・佐藤・小田・他2	フリー
3391	8月4日	甲信	小川山	西本・桜井	フリー
3392	8月6日	インドネシア	バリ島・グヌンアゲン山	北原・他1	ハイク
3393	8月10日	奥多摩	青梅丘陵	初鹿	トレラン
3394	8月11日	甲信	小川山	水野・西本・桜井・小田	フリー
3395	8月11日	道志	高尾山	初鹿	トレラン
3396	8/11～16	北ア	涸沢ベース(前穂高IV峰正面壁/滝谷ドーム中央稜/涸沢岳～北穂/滝谷第一尾根)	平・佐藤・他2	バリ
3397	8月18日	奥多摩	天王岩	佐藤・小田	フリー
3398	8/17～18	甲信	小川山	西本・他1	フリー
3399	8/21～25	北海道	利尻山	山里・他1	ハイク
3400	8月24日	甲信	小川山	佐藤・小田	フリー
3401	8/24～26	上越	栗子山塊・滑滝沢右俣～栗子山～左俣下降	初鹿・西本	沢
3402	8/25～8/31	甲信	小川山	水野・他1	フリー
3403	8月31日	奥多摩	奈良倉山	初鹿・市瀬・平・他3	ハイク
3404	8/31～9/1	甲信	小川山	佐藤・小田・他2	フリー
3405	9月1日	道志	高尾山	間宮	ハイク
3406	9月7日	甲信	三つ峠	佐藤・他多	岩トレ

昔から、山登りを自分のために登るのではなく、他の人の「目」のために登る人がいる。でも、山登りってその時の天気や状況によって山のレベルが変わってくるので、他と比べようがないんじゃないか？。人の「目」ために登るのなら、スポーツクライミングやトレイルランのやっている方がよっぽど健全。山登りなら山が好きで楽しいから山に登るのが健全だよな。

ふ - けんぜん【不健全】

心身がすこやかでないこと。物事の状態などがゆがんでいること。また、そのさま。
デジタル大辞泉より (H)

今号は滅多にももらえない方々からの貴重な原稿が満載。個人的には海外の登攀記録をおもしろく読ませてもらいました。ひと足早く記事を読めるのは良いのだけれど、会報をもらう楽しみがちょっと減るのが残念。編集のときには目にできない写真と、クライミング日記が初見か。(T)

その(1) 今まで、編集には地味なQuarkExpress(しかも英語版)を使っていましたが、時代の波に乗ってAdobe InDesignにかえてみました。てなわけで練習がてら軽くりリニューアルです(気が付きましたか?)動作も軽くすぐく快適です。不意落ちしないし、表組みや、目次づくりやいろ～んなことが格段に楽になりました。とは言え、岡さんに頂いた表組みはデータの時点で大分手を入れさせて頂いてます。じっくり見直す時間がなくて非常に申し訳ないのですが、変だったらすみません。(M)

あと、皆さん、データの提出方法にはいつもうるさく言って本当に申し訳ないんですが、原稿のタイトルと一緒に、書いた人の名前を書いてくださいね。キャプションも、原稿に書いてほしいです。

でもね、今度のソフトは、画像のメタデータ(って知ってますか?)の内容を、読み込んでキャプション書き出すことができるんですよ！すごいですね～

わかる方は試してみてくださいね。では、次号まで、ごきげんよう。

うめくさもたいへんなですよん様。



発行所:東京都八王子市散田町3-38-6B primula.ac@gmail.com <http://primula.mizunodesign.co>